動悸，震顫，下痢などがおこる。

【薬理】「キニーネ」は極少量にても苦味があり，通常の苦味剤と同様に，胃の飢餓運動を麻痺させて胃液分泌の亢進を來す。それ故，多くの急性伝染病にあつては，少量を，例えば「キナチンキ」，または複方「キナチンキ」として，食前に 15-20 滴宛用いる(第241頁参照)。

大量の「キニーネ」は，平滑筋に作用する。特に心筋が侵されて興奮性は鈍麻し，不感期が長くなる。それ故，「キニーネ」または「キニヂン」は，心房「フリンメルン」(恒久性不整脈) の際に用いられるのである(第115頁参照)。

子宮の平滑筋も亦，「キニーネ」にたいして反応し，その興奮性は亢進する。それ故，「キニーネ」は陣痛を誘発するために用いられる(1 回量 0.3-0.5g)。しかも「キニーネ」は，脳下垂体および麥角製剤に反して，毫も強直状態をおこす傾向がないから，「キニーネ」は，子宮口の未だ開いていない際にも用いられる(第424頁参照)。従つて，妊婦の「マラリア」療法に際しては，流産をおこすことがある。しかし，それぞれの場合に，果して「キニーネ」のためか，或は「マラリア」そのもののために，流産がおこつたかを決定することは困難である。いずれにしても，妊娠時には少量を与えるか，或は「プラスモヒン」または「アテブリン」を用いるがよい。

従前は，「キニーネ」は一般的解熱剤として使われたが，今日は一定の伝染病に際してのみ用いられる。即ちまず「キニーネ」は，地球上における最も多い原虫病なる，「マラリア」にたいして原因的作用を呈する。人類の約 1/3 は「マラリア」にかかり，毎年 2-3 百万人は，そのために死んでいるのである。「キニーネ」の薬效範囲は驚くほど大きく，健康な成人では，致死量は約 10-15g である。一面においては，小さい小兒では，2g で死んだ場合がある。しかしながら，中毒の早期症状は顕著であるから，大多数の場合には，過量を与えることが妨げられる。

この他，「キニーネ」は肺炎および流行性感冒の際にも用いられるが，この際には，原因的作用があるかどうかは疑わしい。むしろ，この場合には，物質代謝の減退および酸素節約のために良好な影響があるらしい。

「マラリア」は，種々な病型，即ち隔日熱(三日熱)，四日熱，および熱帯「マラリア」として現われ，その地理的分布は，診断上重要である。「マラリア」の伝播は，♀の「アノフェレス」蚊によつて行われ，このものは寄生虫を鎖状芽胞子の形で，血液中に接種する。この胞子は，細網内皮細胞内にて或る潜伏期を経過し，そうして後に赤血球を侵し，その内にて環状或は多形性の色素抱合物を形成する。寄生虫は赤血球内で発育した後，無性的に分裂して血液中に游出し (分裂生殖)，再び赤血球内に侵入し，その所にて最初よりの週期を反復する。分裂小体 Schizont の游出する度毎に，熱発作が誘起せられるのであるから，その頻度は分裂生殖の周期によつて定められる。

分裂小体の周期は，循環する血液内において行われるが，その傍ら，有性形(雄性および雌性生殖体)もあつて，それは体内の器官，特に脾臓内，並びに末梢部の血液中において，8-10 日にして成熟し，その後の性抱合および繁殖は，蚊の体内で行われる。熱帯熱の有性生殖体は，定型的の半月形をなすのが特有である。蚊の刺すことによつて「マラリア」が伝播せられるのは，この有性生殖体のみによるのである。そして胞子が接種されて後，約 14 日にして最初の熱発作がおこる。

「マラリア」寄生虫は，体内の到る処に侵入して，その所に重症の病的変化をおこしうる。それ故，重症「マラリア」の病状は極めて多種多様であり，あらゆる中枢性および末梢性機能を侵しうる。有性的並びに無性的「プラスモヂウム」の発生地として，特別の意義があるのは脾臓である。それ故，慢性「マラリア」に際し，「アドレナリン」を注射して脾髄を圧出するか，脾臓部に熱気圧注を施すか，或は激しい労作を行うことにより，脾臓を收縮させるときは，貯蔵血液と共に「マラリア」寄生虫が循環中に出で，こうして熱発作が誘発せられる。また或る「マラリア」発作は，「アドレナリン」注射のみによつても，治癒させうるとの報告がある。

化学療法にあたつては，分裂小体にたいする薬剤(「キニーネ」並びに「アテブリン」)と，有性生殖体にたいする薬剤とを区別しうる。

分裂小体にたいする薬剤は，「マラリア」寄生虫が，赤血球内に包含せられる間はあまり作用しないが，これに反して，寄生虫が赤血球より游出する瞬間によく作用する。それ故，その時期に「キニーネ」が，血液中に最高の濃度を示すのがよいわけである。従つて多くの臨床家は普通の「キニーネ」量 1.0(-1.5)g を予期した発作の前 4-6 時間に 1 回に与えるか，或はこれを毎時間に「オブラート」に包んで分服させる。しかし，同じ 1 日量を 3-5 回に分けて与える者もある。そうすると，翌日から熱発作がおこらなくなる。しかし再発を防ぐには，体温が正常となつた後も，なお数日ないし 1 週間にわたつて，1 日量1.0を与えるがよい。再発に際しても同様の療法を行う。

「マラリア」の悪性型に際し，或は同時に重症の下痢があつて，内服では「キニーネ」の吸收が困難と思われる場合には，「キニーネ」を「キニーネ・ウレタン」として，筋肉内に(皮下ではない—壞死！)注射することが行われる。また昏睡型には，「キニーネ・ウレタン」を，20-70ccm の食塩水に溶解して徐々に靜脈内に注入することがある。「キニーネ」療法のすべての場合には，蓄積の危険があるから，5-7 日の後には，或る間歇をおかなければならない。

「マラリア」の個人的予防法としては，稍々少量の「キニーネ」を用い，且つ往々与える間歇を長くする。例えば，各 4 日目または 5 日目毎に 0.2 宛を 3 回与えるか，または毎日「キニーネ」0.3-0.4 を服用させる。しかし「キニーネ」は，血液中に接種された鎌状胞子にたいしては有效でなく，それに対しては，今日まで一の薬剤も知られていない。「マラリア」予防に際しても，「キニーネ」はただ，分裂小体にたいして作用するのみである。

肺炎および流行性感冒の治療には，「キニーネ」を1日3回 0.2-0.3 宛与える。その效果は，統計上確かであるらしい。また，この目的には，特別の製剤，「トランスプルミン」(「キニーネ」と「カンフル」との油溶液)，「ソルボヒン」(「キニーネ」と「アンチピリン」との溶液)なども作られており，いずれも筋肉内に注射する。それは，小兒の百日咳肺炎の際にも推奨せられるが，乳兒または小さい小兒には，「キニーネ」含有剤の注射は避けるべきであるとする者もある。これは重症の膿瘍および瘢痕の形成を見ることが，稀でないからである。

この他，滴虫，例えば大腸「バランチヂウム」による赤痢は，塩酸「キニーネ」(1:1000) にて洗

腸し，また鞭毛虫，例えば腸「トリコモナス」による小腸大腸炎も，「キニーネ」(1-2‰) の洗腸を行う。

またバンクロフト氏「フィラリア」による**血液乳糜尿**は，「キニーネ」と「ピクリン」酸「カリ」とを併用すれば奏効するという(宮川)。その方法は(1)塩酸「キニーネ」1.0-0.5-0.3 を「オブラート」に包んで，毎夜1回頓服させつつ，中毒症状の現われるまで持長し，他方，(2)「ピクリン」酸「カリ」2.0 を 60 丸として，その 5-10-15 粒を毎日 3 回食後に分服させる。その際屢々昼の服用量を多くし，夜間の服用量を少なくする。以上の両者を持続的に毎日服薬させるときは，数日後には，尿は「ピクリン」酸のために著色する。こうして 1-2 カ月にわたり尿が濁濁を示さないようになれば，徐々に塩酸「キニーネ」並びに「ピクリン」酸「カリ」の服用量を減じ，遂にこれを中止する。そうすれば数日にして清澄な常尿が排出せられる。

【副作用】 充分な「キニーネ」療法を行う際には，「キニーネ」中毒の早期症状なる頭痛，眩暈，耳鳴りの他，往々動悸，呕吐，下痢などを覚悟しなければならない。かような症状は，患者の堪えられる最大量を示すものである。しかしながら，なおも蓄積するときは，重症の神経症状(聾，のみならず，一過性或は永続的の盲目)，重症の心臓障碍，脳症状(「キニーネ」酩酊，譫妄，虚脱)をおこすことがある。なお頗る不快なのは，屢々見られる「キニーネ」にたいする特異質であつて，その際には「アレルギー」性症状がおこる(皮膚蚤痒および皮膚発疹，蕁麻疹，「キニーネ」工場における「キニーネ」蜂傷など)。また流産をおこすこともある。

この他，熱帯熱の際に，恐れられるのは黒水熱で，その際には赤血球が破壊して溶血がおこり，細尿管が閉塞せられて無尿となる。これは通常，前の「マラリア」発作がよく治療せられなかつたことと関係があり，「キニーネ」によつて誘発せられる。

【製剤及用量】 塩酸「**キニーネ**」Chininum hydrochloricum, $C_{20}H_{24}O_2N_2 \cdot HCl + 2H_2O$. 白色の針状結晶で味甚だ苦く，34 倍の冷水に溶解する。「マラリア」には 1 日量 1.0(-1.5)を 1 日 3-数回に「オブラート」に包んで分服させる。小児には1才に付 0.1 を与える。注射には次の液を用いる：

塩酸「キニーネ」	10.0	(本液 1.5ccm＝塩酸「キニーネ」0.5g に相当する)
「エチルウレタン」	5.0	0.5-1.0ccm 宛筋肉内または徐々に静脈内に注射。
蒸溜水	18.0	

処方例　塩酸キニーネ　1.0
以上分 3 包
1 日3回1包宛
「オブラート」に包み服用

Rp. Chinin. hydrochl.　1.0
Div. in Pulver Nr. 3
S. 3×tägl. 1 Pulver
in Oblaten z. n.

塩酸キニーネ丸 Pilulae Chinini hydrochlorici (局方). 1 個中塩酸「キニーネ」0.05g を含有する。

塩酸キニーネ錠 Tabulettae Chinini hydrochlorici (局方). 1 箇中塩酸「キニーネ」0.1g を含む。

「バグノン」Bagnon. 1 ccm 中塩酸「キニーネ」0.068，「カフェイン」0.0172，「ウレタン」0.0142 を含む。1 日 1-3 回，1 回 2-5 ccm 宛筋肉内または静脈内注射。

硫酸「キニーネ」Chininum sulfuricum, $(C_{20}H_{24}O_2N_2)H_2SO_4 + 8H_2O$. 白色細微の風化しやすい針状結晶で，味甚だ苦く，約 800 分の水に溶解する。用量 塩酸「キニーネ」に同じ。

「タンニン」酸「キニーネ」Chininm tannicum. 帯黄白色，無臭，無晶形の粉末で，極めて微弱な苦味があり，水には僅微に溶解する。塩酸「キニーネ」の約倍量を用いる。

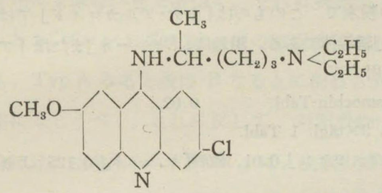
「**エチル**」炭酸「**キニーネ**」Chininum aethylcarbonicum(「**オイヒニン**」Euchininum), $C_2H_5OCO_2C_{20}H_{23}N_2O$. 82% の「キニーネ」を含み，難溶性にして少しく苦味のある白色の針状結晶である。苦味が少ないから小児に適し，屢々百日咳の際にも推奨せられる。用量 (1日) 1 年以下 0.1，1-2 年 0.2，3-4 年 0.3，5 年 0.4，

8-14 年 0.5：大人 1 回 0.5-1.0。

「ソルボヒン」Solvochin. 25%「キニーネ」と 15%「アンチピリン」とを含有する無刺戟性の溶液で，1日 1 回 1ccm 宛筋肉内注射。

2. 「アテブリン」

「アテブリン」は，合成的に作られた一の分裂小体にたいする薬剤で，従つて「キニーネ」に類似し，化学的に見れば，一つの「アクリヂン」誘導体である。このものは種々な原虫伝染に際して，良い化学療法的作用を呈することが知られ，人の「マラリア」にも，すべての病型にたいして，完全に「キニーネ」の作用を呈する。それ故，キニーネに堪えられないすべての場合，並びに「キニーネ」の副作用が恐ろしい場合に，特に重要である。



「アテブリン」

「アテブリン」は一定の局所刺戟作用があるから，食後に服用させる。しかし多数の患者は良く堪えられ，「キニーネ」よりも使用しやすく，小兒にも用いられる。このものは一つの生体色素で，皮膚の中にも沈着する。それ故，黄色の始まつたのを，黄疸と誤つてはならない。

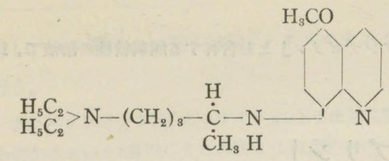
【製剤及用量】「**アテブリン**」Atebrin.「マラリア」の際には 1 日 3 回 1 錠(0.1)宛を 4-7 日間与え (食後)，予防には毎週 2-3 日間 1 日 2 錠宛(小兒には 1 錠)を用いる。

注射用「アテブリン」 Atebrin pro injektione (Atebrin-di-Methansulfonat). 一つの水溶性な「アテブリン」誘導体で，重症「マラリア」に際して用いられる。用量 1 日 1 回 0.3g 筋肉内。

3. 「プラスモヒン」

「プラスモヒン」は，「メトキシヒノリン」の一誘導体で，「キニーネ」および「アテブリン」と異なり，一つの有性生殖体*Gametocytes* にたいする薬剤である。これに反して，分裂小体は，あまり確実に死滅しない。「プラスモヒン」と共に，若干の合成的「マラリア」剤が現われたが，時日を経るにつれて，「プラスモヒン」は，熱帯熱の治療には適せず，むしろ，その治療には「キニーネ」または「アテブリン」と併用すべきことが明らかとなつた。「マラリア」にたいする危険のない臨床的治療は，「キニーネ」と「アテブリン」とによつて，よく達せられるが，最近になつて「マラリア」の再発にたいする「プラスモヒン」の特殊の作用が認められるようになつた。それ故，臨床上においては「プラスモヒン」は，「キニーネ」または「アテブリン」療法につづいて用いられる。

なお「プラスモヒン」も亦，「アテブリン」と同様に，「キニーネ」特異質の際，特に黒水熱の際には重要であつて，この場合には，これらの物質は生命の危険を救助しうる。



「プラスモヒン」

その他,「プラスモヒン」は,地方的「マラリア」を根絶する目的に推奨せられる。これは蚊による伝播は,伝染しうる有性生殖体が患者の血液中に存在し,蚊の体内にて鎌状胞子に発育する場合にのみ行われるからである。それ故,沼や堀を乾燥させ,水「タマリ」を石油にて処置し,且その他の蚊を退治する方法の傍ら,「プラスモヒン」も亦,意義があるわけである。

「プラスモヒン」は,「カナリア」鳥についての動物試験によると,薬效範囲が大きく[1],その激甚な副作用は,人にあつては通常用量を著しく超過した際に見られる(「メトヘモグロビン」の形成による「チアノーゼ」,腸の痙攣,心臓の律動障碍,および時としては黄疸)。

【製剤及用量】「**プラスモヒン**」Plasmochinum. 白色の粉末で,このものは「キナ・アルカロイド」ではなく,また「キニーネ」誘導体でもないが,等しく「キノリン」誘導体である。用量は,「キニーネ」または「アテブリン」療法につゞいて,1日3回0.02宛を7日間連用する。

処方例　プラスモヒン錠　(0.02)　Rp. Plasmochin-Tabl.　0.02
　　1日3回1錠宛　S. 3×tägl. 1 Tabl.

複方「プラスモヒン」Plasmochinum compositum.「プラスモヒン」0.01,硫酸「キニーネ」0.125 よりなる錠である。用量は1日3回2錠宛,7日間連用する。

処方例　**複方プラスモヒン錠**　Rp. Plasmochin. compos. Tabl.
　　1日3回2錠宛　S. 3×tägl. 2 Tabl.

C. 最近の化学療法剤及抗生剤

1. 「スルファニルアミド」及その誘導体[2]

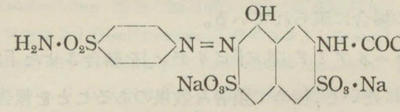
細菌性伝染にたいする最初の化学療法は,「**プロントジル**」Prontosil の発見によつてなされた(1935 年 Domagk)。その間に,若干のこの列の有效物質(赤色「プロントジル」,可溶性「プロントジル」,「ウリロン」など)が製せられた。これらの物質は,化学的に見れば p-Amidophenylsulfonamid,略して「スルファニル・アミド」Sulfanilamid の誘導体である。赤色「プロントジル」を与えるときは,その分子が物質代謝においてこわれて「スルファニル・アミド」を生じ,このものは内服させても類似の作用がある。この「スルファニル・アミド」は,**白色「プロントジル」**なる名の下に販売せられた。

かような物質は,化学療法的には,主として「マウス」の連鎖狀球菌伝染にたいして有效である。

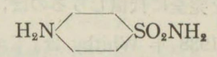
1) 人間の「マラリア」は実験動物に感染させることはできないから,「アテブリン」,「プラスモヒン」などの発見には,鳥類の「マラリア」が応用せられた。
「アテブリン」と「プラスモヒン」とは,共にその構造において,同じ側鎖:$-NH\cdot CH(CH_3)-(CH_2)_3-N<^{C_2H_5}_{C_2H_5}$ をもつことは,注目に値する。

2) 「スルファニル・アミド」及その誘導体,並びに「ペニシリン」などの作用は,普通に化学療法とも,抗菌療法とも呼ばれている。

3-5日以上にわたり反復注射するときは,治療係數は $^1/_{100}$-$^1/_{5000}$ であり,一回注射する際には $^1/_{20}$-



可溶性「プロントジル」



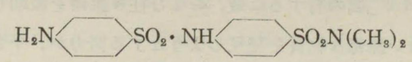
「スルファニル・アミド」
(白色「プロントジル」)

$^1/_{50}$ である。それ故,動物試験における治療作用の確実なことは,驚くべきものである。

「スルファニル・アミド」と,細菌の発育「ビタミン」ともいうべき p-「アミノ」安息香酸とは,その構造式が類似する点から考えると(第397頁欄外参照),「プロントジル」の作用機序は,恐らく細菌が,その発育に必要な物質と誤まつて,抑止物質を摂取するにあるらしいが,他方,特殊の全身作用にも求むべきであつて,それは身体が一定の治癒準備狀態にある際にのみ,效力を生ずる。なお「プロントジル」は,他の細菌感染にも作用する。即ち「マウス」の脳膜炎球菌伝染にあつても,Typ A なると或は B なるとに拘わらず,予防的処置によつて,致死量の百万倍の細菌を無害になしうべく,これに反して,対照動物は,重症敗血症の下に 24-48 時間内に死ぬ。この場合には,白色「プロントジル」は,疾病の始まりにのみ有效である。注目に値するのは,「スルファニル・アミド」は,短時間のみ作用するが,赤色「プロントジル」は,注射後 4 日間にわたつて,連鎖狀球菌伝染にたいし「マウス」を保護する作用があることである。

【臨床的応用】 人では,敗血症および産褥熱の際に頗る良效があり,統計上,致死率の著しく減少することが認められた。用量は,白色「プロントジル」錠(0.3g)を1日3回用いる。その他,時として丹毒,「フレグモーネ」,「ガス」壞疽および脳膜炎球菌伝染に際しても良效を奏する。そして或る場合には,上記の量よりも遙かに大量が用いられた。例えば,「スルファニルアミド」(白色「プロントジル」)の錠(0.3g) 3 個を 4 時間毎に用い,それにつぐ日には,漸次に 2 錠に減ずる。なお今日まで不治であつた女の慢性淋疾も,白色「プロントジル」にて奏效し,往々持続的に治癒せしめうる。但し新鮮な伝染は,今まであまりよく反応しない。

次でこの領域における進歩は,「**ウリロン**」の発見によつてなされた。

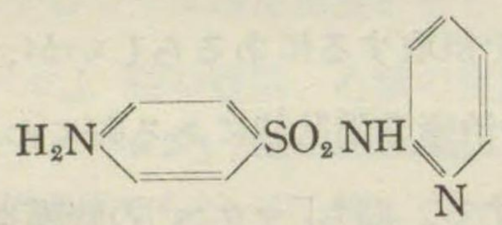


「ウリロン」

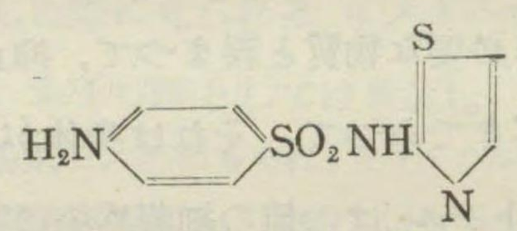
この「ウリロン」なる重要な薬剤も亦,身体が一定の治癒準備狀態にある際にのみ作用し,かような狀態は,急性淋疾の感染後,一般につぎの 10-20 日の中に初めて発生する。それを応用するには,所謂「ウリロン」突撃の形式によるのが適当である。即ち 3 日間――强壯な患者では 4 日間――1 日 3 回 2 錠宛(1 錠=0.5)を用いる。早くとも 8 日の間隔をおいて後に,これを反復して与える。それよりも長い時日にわたつて治療を行うか,或はそれよりも大量を用いるときは,却つて良い成績はえられない。それは血液中に証明しうる防衛力の重症傷害をおこすためである

と考えられる。こうして「ウリロン」の応用により，普通の淋疾治療法は一そう有效となる。しかし，それを完全に代償しうるのは，一定の場合に限られている。

さらに 1938 年 Whitby は，「スルファニルアミド」基に「ピリヂン」を結合させた「**スルファ・ピリヂン**」が，肺炎，その他の肺炎球菌疾患にたいし，極めて顕著な効果のあることを報告した。なおそれと相似た「**スルファ・チアツォール**」，または「**スルファメチル・チアツォール**」の毒性は，動物試験にて「スルファピリヂン」の約 65% であり，臨床上においても，その効果は，兩者殆んど相等しく，しかも悪心・嘔吐などの副作用が少なく，葡萄狀球菌にも卓效があるという。また「**スルファ・グアニヂン**」とともに，赤痢，疫痢などにも有效である。



「スルファ・ピリヂン」



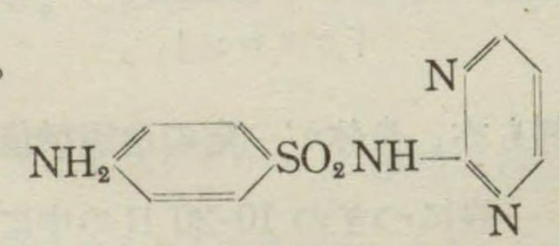
「スルファチアゾール」

これは，腸管内で極めて微量しか吸收せられないため，高濃度の薬剤を腸管に与えることができる故であると考えられる。

【副作用】 治療にあたつては，「スルファニルアミド」属の毒作用を顧慮しなければならない。即ち往々大量を用いることが必要であるが，その際には，若干の重篤な副作用が認められる。例えば硫化「ヘモグロビン」(これは硫酸塩，[1] 或は腸内にて生成せられた H_2S に堪えられないためにおこる)，または「メトヘモグロビン」の形成を見る。しかし，これらの血液の変化は，「チアノーゼ」の始まるによつて容易に知られ，投薬を中止すれば通常速かに消退する。（重症の場合には輸血を行う)。その他の物質代謝の変化(「ポルフィリン」の排出)，骨髓の症狀(顆粒細胞消失症，貧血)，脳症狀(眩暈，失神)，皮膚症狀，および黄疸も時として見られ，「ウリロン」使用後には，頑固な腎臓炎をおこすこともある。

「スルファピリヂン」による副作用として屢々見られるのは，嘔吐・悪心で，その他，血尿，皮膚の発疹，溶血，白血球減少症，または顆粒白血球減少症，「チアノーゼ」などを起すことである。

そこで「スルファニルアミド」属の有する卓效，および往々生命を救助しうる性狀をどこまでも保存し，しかも副作用のない無毒な物質を発見しようとする努力が，今もなおつづけられている(「**スルファ・ダイアジン**」その他)。



「スルファダイアジン」

【製剤及用量】「**スルファミン**」Sulfaminum（**白色**「**プロントジル**」Prontosil album，「テラポール」，「ゲリソン」，「ルジール」，「プロセプチン」)，Aminophenylsulfamidum，Sulfanilamid. 無色の結晶或は白色の結晶性粉末で，無臭，微に苦味がある。1 日 3 回 0.3-0.6 g(1-2 錠)宛，注射は 1 日 1-3 回 1 筒宛筋肉内。

1) それ故，「スルファミン」剤と同時に，硫苦または芒硝を与えることは，避けなければならない。

「**アセトスルファミン**」Acetosulfaminium (「レギオン」，「ネオゲリソン」，「ネオテラポール」)，Aminophenylsulfacetamidum. 無色の結晶或は白色の結晶性粉末である。内服用と注射用(10-30%)とがある。

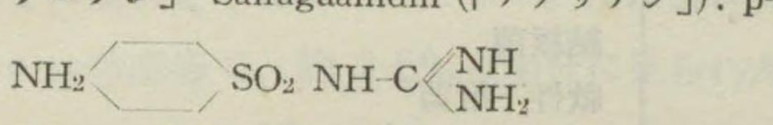
「**ヂスルファミン**」Disulfaminum (「**ウリロン**」Uliron，「アルバジール」，「ヂセプタール」，「ウリノーゲン」)，Aminophenylsulfaminophenylsulfdimethylamidum. 無色の結晶或は白色の結晶性粉末で，臭気なく微に苦味がある。1 日 3 回 0.5-1.0 (2 錠)宛，淋疾には，感染後 10-20 日を経て後，3-4 日間 1 日 3 回 1.0 (2 錠)宛を与え(食後)，8 日の間隔をおいて，之を反復する。

「**スルファピリヂン**」Sulfapyridin(「アヂプロン」，「トリアノン」)，2 (p-Aminophenylsulfonamido)-pyridin. 無味，白色の結晶性粉末である。用量は急性肺炎患者には，通常 1 回 1.0g づつ 1 日 3-4 回用い，総量を 15g 位で止めるか，或は初回に 2.0g を与え，ついで昼夜の別なく 4 時間毎に 1.0g を与え，総量を大体 25g 内外とする。しかし，多くの場合には総量が 16g 位に達したならば，更に投与を継続すべきか否を考慮するがよい。小児では，大約体重 1 kg にたいして 0.1-0.2g を 1 日量とし，これを 4-6 回に分けて 6-4 時間毎に使用する。嘔気を防ぐために，屢々同量の重曹を配合して与える。

「**スルファ・チアゾール**」Sulfathiazol(「サルゾール」)．細菌性赤痢に用いられる。用量は「スルファメチルチアツォール」に同じ。

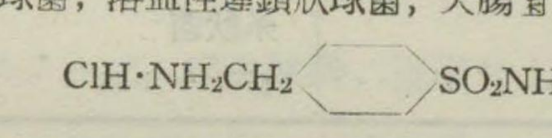
「**スルファ・メチル・チアツォール**」Sulfamethylthiazol，2(4′-aminobenzolsulfonamid)4 Methylthiazol「ネオヂセプタール」)。細菌性赤痢にたいして最も推奨せられる。なるべく早期に使用すべきであるが，遅くても效果は期待できる。用量は最初の 1 回は 2.0，ついで 1 回 1.5 を 1 日 6 回，4 時間の間隔で 3 日間連続投与する。重曹と併用してよい。小児にはヤング氏計算量の約倍量を用いる。

「**スルファ・グアニヂン**」 Salfaguanidin (「アテリアン」)．p-Aminobenzolsulfonamidguanidin. 粉末及び錠 (0.5) がある。



「**スルファ・ダイアジン**」 Sulfadiazine，p-Aminobenzene-sulfonamido-pyrinidine. 毒性が「チアゾール」の $^1/_3$ で，吸收は早く，血液内の濃度は速かに上昇する。臨床的には，肺炎双球菌にたいして「スルファピリヂン」や，「スルファチアゾール」にまさる效力があり，しかも副作用が殆んどない。

「**マルファニール**」 Marfanil(「マルファニン」)，4-Amino-methylbenzene-sulfonamide hydrochloride「ガス」壊疽菌の他，破傷風菌，葡萄狀球菌，溶血性連鎖狀球菌，大腸菌，緑膿菌，「ヂフテリア」菌などにも有效であるという。

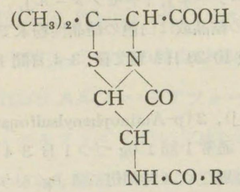


2. 「ペニシリン」[1]

「ペニシリン」*Penicillin* は，抗菌作用が強大で，しかも副作用は殆んどない。このものは 1928 年に英國の細菌学者 Fleming により，青黴 Penicillium notatum の培養濾液中に発見されたものである。後には，「ペニシリン」を多量に形成する有效株の探求，ついで培養條件の改良，さらに濃縮，抽出，結晶化などの段階をへて，精製され，高単位のものがえられた。「ペニシリン」の単位としては，最初には Oxford 単位が用いられた。1 Oxford 単位とは，試験物を，「ブイヨン」50 cc に稀釈し，黄色葡萄狀球菌(Heatley 株)の発育を完全に阻止するに必要な最少量をいう。但し最近には国際単位として「ペニシリン」F.G.X.K の 4 種の中，結晶形「ペニシリン」G の Na塩 0.6「マイクログラム」の示す特殊「ペニシリン」作用と規定された。

1) この種のものを抗生物質または**抗生剤** *Antibiotics* という。

「ペニシリン」は，不安定な酸であるから，Na または Ca 塩の粉末として，低温，真空狀態において保存される。その構造は次の通りである。



$$R=\begin{cases}(F):CH_3\cdot CH_2\cdot CH=CH\cdot CH_2-\\(G):C_6H_5\cdot CH_2-\\(X):OH\cdot C_6H_4\cdot CH_2-\\(K):CH_3\cdot(CH_2)_5\cdot CH_2-\end{cases}$$

「ペニシリン」は，各種の細菌にたいし選択的に作用する。いま「ペニシリン」に敏感な菌と，感じない菌とを挙げると，次のようである：

敏　　感	不　　感
葡萄狀球菌(黄色化膿性)	グラム陰性桿菌（大腸菌，チフス菌，赤痢菌，コレラ菌など）
連鎖狀球菌(溶血性，嫌気性，綠色)	インフルエンザ菌
肺炎双球菌	変形菌
淋菌	綠膿菌
流行性腦脊髓膜炎菌	フリードレンデル菌
カタル性球菌	結核菌
紡錘狀菌(ガス壞疽菌，破傷風菌)	軟性下疳菌
脾脱疽菌	ツラレミア菌(野兎病菌)
ヂフテリア菌	ペスト菌
放線狀菌	豚流產菌
梅毒スピロヘータ	マラリア病原体
黄疸出血性スピロヘータ等	酵母菌
	糸狀菌
	ヴィールス

Fox によると，1165 例の諸感染症の「ペニシリン」治療において，淋菌，脳脊髓膜炎菌，肺炎双球菌感染は 100%，溶血性連鎖狀球菌は 92%，葡萄狀球菌感染は 88%の治癒率を示したという。但し同一の菌種にても，その株により作用の程度が異なるから，臨牀上「ペニシリン」を使用する際には，このことを考慮する必要がある。「ペニシリン」は，細菌を殺すのではなくて，細菌の発育増殖を抑止するものである。また「ペニシリン」に敏感な細菌も，「ペニシリン」の稀釈濃度の溶液を通過すると，「ペニシリン」にたいする抵抗性を増すが，同時に，その細菌の毒性も減少するといわれる。「ペニシリン」に感じない細菌の或るものは，「ペニシリン」を不働化する分解酵素 Penicillinase を成生する。それ故，「ペニシリン」の抗菌作用の選択性の一因子は，かような分解酵素によるものと考えられる。

【吸收及排泄】「ペニシリン」は水によく溶解し，注射，経口，局所のいずれでも，速かに吸收される。但し経口的投与では，緩衝剤の併用などをしなければ，胃液中の酸により破壞され，僅少量が体内に吸收されるに過ぎない。その排泄も，尿，胆汁，唾液から，速かに行われる。筋肉内

注射では，比較的急速に吸收され，75 分ないし 1 時間にわたつて，血液中に高濃度を保ち，ついで 2-3 時間低い濃度に止まり，ついに血液中より消失する。「ペニシリン」は，脳脊髓液中には，殆んど移行しないか，或は微量が移行するのみである。それ故，脳脊髓膜炎患者には，腰椎または後頭穿刺により注入しなければならない。

【用法】 通常使用される「ペニシリン」は，粉末狀をなす Na または Ca 塩で，水溶性である。用に臨み，少量の無菌蒸溜水，等張食塩水，または 5% 葡萄糖液などに溶解して使用する。注射液 1cc. に，5,000—50,000 単位を含むようにすれば便利である。調製した溶液は，分解を避けるために，氷室内に無菌的に貯える。通常は筋肉内に注射するが，靜脈注射，または局所注入を行うこともあり，この他，油性「ペニシリン」，内服用「ペニシリン」(錠剤，「カプセル」入)，軟膏などもある。

最近には 1cc. 中 300,000 単位を含む油性「ペニシリン」が発売され，新投与法としては，少量宛を 1 日に何回も注射するよりも，一度に大量を注射し，1 日 1-2 回に止める用法が採用されるようになつた。

【副作用】「ペニシリン」は毒性が殆んどなく，「スルフォンアミド」のように，造血器(脊髓)や腎臓，肝臓などに傷害を与えることはない。ただ稀におこる副作用は，次のようである：すなわち，最も多いのは蕁麻疹で，約 2-5%の場合に見られたが，これは不純物によるといわれる。その他，発熱，頭痛，腹痛，下痢，悪心，呕吐などを伴い，或は薬疹，水泡性紅斑を見ることもあり，全身浮腫，腹部痙攣，異常味覚，注射部の灼焦痛，筋肉痛，睾丸痛，靜脈栓塞，「エオジン」好性細胞増多症などが起つたとの報告もある。また脳室内または後頭注入の際に，大量に過ぎると痙攣がおこる。

生後まもない乳兒には，「チアノーゼ」，呼吸障碍，痙攣などをおこし，危険のことがある。また梅毒の「ペニシリン」の療法では，第 1 回注射で相当の数にヘルクスハイメル氏反応がおこる。すなわち，早期梅毒では，68%の場合に発熱，悪心，頭痛を訴え，20%に粘膜の発赤増强，局所症狀の増悪を來したとの報告がある。それ故，心臓血管系の梅毒，および先天性梅毒には，最初の 1 回から大量を与えることは，控えなければならない。

【臨牀的応用】 肺炎．これまでは，中等症竝びに重症には，3 時間毎に 10,000- 20,000 単位宛を筋肉内に注射し，5-6 日間連続していたが，最近には 1 回 30 万単位を，第 1 日には 12 時間おきに 2 回，その後は 1 日 1 回注射するようになつた。これにて充分に治療の目的を達しうる。普通は 48 時間内に解熱するから，解熱後も 3-4 日間は，同様の注射をつづける。病症により用量を加減し，且つ再発を防ぐためには，解熱後も充分に長く使用することが必要である。

肺炎の「ペニシリン」療法にあたり，「スルフォンアミド」剤を併用または前後して使用しても良い。例えば解熱するまで「ペニシリン」を使用し，その後「スルファピリヂン」または「スルファダイアジン」などを用い，或は初め「スルフォン」剤を使用し，效果の現われ方が遲いときに，「ペニ

シリン」を加えてもよい。

肺炎の「ペニシリン」療法は，治癒率を高め，経過を短縮し，且つ膿胸・肺膿瘍・肺壊疽などの合併症を防止する特色がある。

膿胸には 50,000—200,000 単位を 10—40cc の食塩水に溶かし，胸腔内の膿をできるだけ排除して後に，胸腔内に注入する。(通常1日1回)。軽症に早期に用いると，3-5日で有効であるが，一般には 7-14 日間位使用する必要がある。「ペニシリン」により胸腔内は無菌となつても，膿汁の吸收は促進されないから，膿汁を排除することが必要であり，時としては，胸腔内を 50—100 cc. の生理的食塩水で反復洗滌した後に，「ペニシリン」の注入を行う。また必要に応じて全身投与を併用する。

淋疾，「ペニシリン」は淋疾剤中最も偉效を奏し，100% の治癒率を示し，しかも比較的少量で治癒させうる。原則として，淋疾には4時間毎に 25,000—50,000 単位宛を筋肉内に4回注射する。即ち総量 100,000—200,000 単位の 12 時間療法で，90—96% の割合に治癒する。抗「スルフォン」剤性淋疾にも有效である。但し最近には，油性「ペニシリン」30 万単位1回の筋肉内注射で，前記の4時間法と，ほぼ同様の效果が見られるようになつた。

淋疾も，初期ほど治癒しやすく，また合併症として副睾丸炎，前立腺炎，卵管炎，子宮内膜炎などをおこした場合には，1回の用量を増し，或は使用期間を延長し，或は「スルフォン」剤を併用するがよい。この他，淋毒性関節炎には，「ペニシリン」溶液を関節腔内に注入すれば3日間位で治癒させうる。

脳脊髄膜炎，流行性脳脊髄膜炎にあつては，1cc.—1,000 単位の濃度とした「ペニシリン」水溶液を 10cc.，即ち 10,000 単位を脳脊髄液 10cc. を排除した後に，腰椎内または後頭穿刺により 1 日 1-2 回注入する。

本疾患は，多くの場合「スルフォン」剤のみで治癒させうるが，「スルフォン」剤に抗抵性のある場合，副作用の強い場合，後貽症を防止しようとする場合には，特に「ペニシリン」が必要である。当初より「スルフォン」剤と「ペニシリン」とを併用してもよい。

肺炎球菌性の脳脊髄膜炎では，原則として「ペニシリン」溶液の腰椎内注入を行うと同時に，筋肉内にも注射する。これは肺炎球菌による病巣が，他に隠れていることが多いからである。従前は本患者は 100% 死亡したが，「スルフォン」剤で 35% 治癒し，さらに「ペニシリン」により 100% に近い治癒率を示すようになつた。

この「ペニシリン」治療は，ほぼ症状の消退後，1-2 週間つづけねばならない。「スルフォン」剤を併用するときには，「ペニシリン」を 7-10 日間用い，その後「スルフォン」剤を最少限 2 週間使用する。

肺壊疽及肺膿瘍　呼吸器の化膿性疾患には，従來注射療法も行われたが，近時は吸入療法や，気管支内注入療法を併用する。吸入には，1cc. につき 5,000 単位の濃度の「ペニシリン」溶液

を 1 日 2-5 回吸入する。但しあまり大きな效果を望みえない。気管支内注入には 1cc. につき 1,000-5,000 単位の割合に蒸溜水または食塩水，或は 5% 葡萄糖液に溶いたものを 1 日 30,000 -50,000- 100,000単位を 1 回に注入する。3週間位，全量 600,000- 1,000,000単位となる頃に，效果が見られる。それには咽頭を「コカイン」で麻酔し，声帯を通じて喉頭鏡を使つて，呼気の際に注入する。耳鼻科医の協力をえて，気管支鏡を用い，患側および病巣の場所をねらつて，注入するのが的確である。注入後は患者をして，しばらく患側を下にした側臥位をとらせる。

梅毒．「ペニシリン」の梅毒にたいする效力は，頗る卓越している。從來の「サルバルサン」・蒼鉛療法では 1 年半以上を要し，砒素剤に抵抗する症例も多かつたが，「ペニシリン」では，短時日で治療を終ることができる。

通常は 1cc内に 5,000- 10,000単位を含むように溶解し，1-3万単位を 3 時間毎に使用していたが，最近には，水溶性 30万単位(油性ならば 60 万 単位) を 1 日 1 回 8 日間連続筋肉内に注射するようになつた。

晩期の皮膚および骨梅毒も，「ペニシリン」によく反応し，先天梅毒についても，よい成績がえられる。ただ副作用としてヘルクスハイメル氏反応が相当におこるが，症状は 24 時間内に消失するから，治療の続行が不可能になることはない。

神経梅毒にたいしては，早期梅毒に見られるような效果はないが，從來の療法よりも遙かに優れた成績がえられ，脳脊髄梅毒・麻痺症は 80%，脊髄癆は 60%の軽快をみるという。但し治療效果の判定には，4 カ月以上 $1^1/_2$ 年にわたる長期観察が必要である。

現今一般に行われる駆梅療法は，再発を防止し，完全に治療する目的で，「ペニシリン」療法を主とし，これに砒素剤および蒼鉛剤を併用する。そして砒素剤としては「ネオサルヴァルサン」よりも，むしろ「マハルセン」(「マハセゾール」)が使われる(第 502 頁参照)。

亞急性細菌性心内膜炎(遷延性心内膜炎)．從來いかなる治療にも抵抗し，「スルフォン」剤にても，一時症状を緩解しうる程度に過ぎなかつた亞急性心内膜炎も，「ペニシリン」により治癒させうるようになつた。それには毎日 500,000- 1000,000- 2000,000単位の大量を長期間，少なくとも 4-8 週間以上，時には年余にわたり使用する。使用法は，靜脈点滴，あるいは間歇的筋肉内注射を行い，時としては発熱期間は靜脈点滴を行い，平熱になつてから筋肉注射に代える。

綠色連鎖狀球菌による遷延性心内膜炎は，自然治癒を示すものは 3-5% に過ぎず，それ以外は「スルフォン」剤を用いても治癒させえなかつたが，最近は毎日「ペニシリン」を 2 カ月以上連用することにより，70-90%前後の治癒率を示すようになつた。

心内膜炎の伝染源となる病巣を除去するには，「ペニシリン」と共に「スルフォン」剤を併用するがよい。

敗血症：「スルフォン」剤は，一般に葡萄狀球菌感染を治癒させえないが，「ペニシリン」は有效である。但し菌株により敏感度が種々であるから，細菌菌株および病症により，用量を増減しな

ければならぬ。出来れば治療の初期には，静脈内持続点滴法を行う。それには1日20-40万単位またはそれ以上を2,000ないし2,400 cc. の生理的食塩水，または5%葡萄糖液に溶解して行う。注入速度は，最初の 100 cc. はなるべく速かにし，その後は1分間20-30滴となるように調節する。静脈内点滴法は，3-5 日持続し，その後は筋肉内間歇注射法に移る。その用量は，1 日 30-50-100万単位または夫以上とする。

敗血症は，從來は殆んど死亡していたが，「ペニシリン」により，死亡率を10-20%に低下させることができた。治癒傾向を示すまでは，前記の単位を使用しつづける。效果は，數日を経過しなければ見られない。治療は，一般に解熱後少なくとも 1-2 週間つづける。

連鎖狀球菌感染による敗血症は，一般に葡萄狀球菌よりも，「ペニシリン」に敏感である。

溶血性連鎖狀球菌感染には，菌血症の有無に拘わらず，「ペニシリン」が有效である。静注または筋肉内注射とし，体温が下降してから，2-5 日間，平熱を持続するまで治療をつづける。猩紅熱にも，中耳炎などの合併症を予防するには，明らかに有效である。

「スルフォン」剤は，溶血性連鎖狀球菌には有效でも，嫌気性連鎖狀球菌感染には無效であるが，「ペニシリン」は本菌にも有效である。血管系に感染源があるとき，例えば静脈血栓炎には，「ペニシリン」を長期間用いる。

「ガス」壞疽菌は，試驗管内の実驗では，「ペニシリン」により阻止されるが，臨床上最良の成績をうるには，「ペニシリン」とともに，抗毒血清，竝びに壞死および損傷組織の外科的除去を併用しなければならぬ。即ち，壞死した無血組織を外科的に除去してから，「ペニシリン」1日500,000-1000,000 単位の大量を使う。動物試驗では，局所に「ペニシリン」を用いると，静脈内注射の 5 倍有效である。それ故，筋肉内注射と共に，創内に管を通して 1cc. -1,000 単位の濃度で，1 日 30,000 単位を 4-5 日間注入し，これに 10万単位の血清と，輸血を併用する者もある。

「ペニシリン」竝びに「マルファニール」のような「スルフォン」剤は抗菌的に，血清は，抗毒または解毒的に作用する。「ペニシリン」使用により，死亡率は 36%までに低減しえた。また「ペニシリン」を予防的に使用しても，よい影響があるという。

破傷風菌の発育は，「ペニシリン」により阻止しえても，毒素をなくすることはできない。それ故，破傷風にも，「ペニシリン」と共に，抗毒血清を用いるがよい。

その他の感染：放線狀菌感染には，「ペニシリン」療法が最良の治療であるといわれる。特に感染部位を外科的に除去しうる場合，および黄色葡萄狀球菌の混合感染のあるときには，よい效果が見られる。静脈注射よりも，筋肉内注射の方がよい。1 日量 40-80万単位を用い，3-4 週間または夫以上治療をつづけ，再発を防ぐために數週の間隔の後，治療を反復する。

脾脱疽も，菌血症の有無に関せず，「ペニシリン」により軽快する。「フランムベシア」および梅毒症にも有效である。「ヂフテリア」菌には，「ペニシリン」は試驗管内では有效であるが，臨床的には必ず抗毒血清を併用しなければならぬ。丹毒は完全に治癒する。

この他，「ペニシリン」は手術後の二次的感染を予防するためにも用いられ，簡単な手術にては，手術の箇所に，術前2日間，術後3日間注入することがある。

外科的疾患としては，外傷，「フルンケル」，「カルブンケル」，皮下蜂窩織炎，骨髓炎，火傷などの際に，「ペニシリン」が応用される。「フルンケル」および「カルブンケル」は，一般に「ペニシリン」を使用すれば，切開しないで治癒させうる。「ペニシリン」は，生理的食塩水または 5%葡萄糖液 1-2「リーテル」に 100,000- 200,000単位を溶かして，点滴静注とするか，或は筋肉内に注射する。急性症は 4-7 日間，慢性型は7-21日間治療をつづける。皮下蜂窩織炎は切開を行い，同時に「ペニシリン」を使うのがよい。

急性骨髓炎には 1 日 200,000- 400,000単位の筋肉内注射を 2-3 週間つづける。そうすれば，「メス」を加えないで，機能を害うことなしに治癒させうる。近接する関節に化膿がおこれば，局所注入を行う。本症には，早期に大量を与えることが大切である。また慢性骨髓炎では，外科的処置を併用するがよい。

この他「ペニシリン」は，各種の炎症または化膿，例えば歯齦炎，口腔炎，扁桃腺炎などの治療にも，極めて優秀な效果を示す。

3. 「ストレプトマイシン」類

「ストレプトマイシン」 Streptomycin :

1943年 Waksman は，土壤中の放線狀菌 Actinomyces griseus から新しい抗生物質なる「ストレプトマイシン」を分離し，グラム陰性菌に有效なことを発見した。試驗管内で有效なグラム陰性菌としては，「チフス」菌，「パラチフス」菌，「コレラ」菌，大腸菌，結核菌，霊菌，「フリードレンデル」菌，「ツラレミア」菌などがあり，その他 嫌気性連鎖狀球菌にも有效である。「ペニシリン」は，酸性の方が作用を発揮しやすいが，これに反し，「ストレプトマイシン」は，「アルカリ」性になるほど效力が強く，他方，化膿の場所では酸性のことが多いから，作用は制限されるわけである。且つ「ストレプトマイシン」に敏感な菌も，少量の「ストレプトマイシン」で処理すると，速かに抵抗性をうることが報告されている。副作用も亦，「ペニシリン」に比べて相当にみられる。

【臨床的応用】 主として肺結核の急性滲出性病型，急性粟粒結核，結核性髄膜炎，喉頭結核，気管支結核，および腸結核などに応用され著效があるが，慢性肺結核には效果は著明でない。欠点は，長くこれを使用すると，本剤に対して抵抗性(耐性)のある結核菌が出現し，一旦かような性質を得ると，本剤の使用を中止しても，その性質が消退せず，その後は本剤が無效となることである。ただ次に述べる PAS を併用すれば，抵抗性の獲得を多少とも遅らせることが出来ると，報告されている。

【副作用】 頭痛・悪心・嘔吐の他，皮膚炎(発疹など)，「エオジン」好性細胞増多症，関節痛が

多く，稀には発熱を見ることもあるが，療法を中止すれば消退する。なお長期に亘つて大量を使用する際には，極めて稀に再生不能性貧血または顆粒白血球減少症を見たとの報告があるから，時々血液検査を行う必要がある。

その他最も屢々おこる副作用は，神経系，特に聴神経の障碍で，中でも眩暈は最も早期に屢々見られ，これに次で多いのは耳鳴り，稀に難聴である。これらの症状が現われたならば，直ちに投薬を中止しなければならない。

【用量】 通常毎日 0.5(-1.0)g を筋肉内に注射して，6-8 週または時として夫以上におよぶ。

「ダイハイドロ・ストレプトマイシン」 Dihydro-streptomycinは，副作用は少ないが，作用も弱く，「ストレプトマイシン」の倍量を用いねばならない。

「オーレオマイシン」 Aureomycin：

Duggar が Streptomyces aureofacies なる放線状菌の一種から取出した黄色の結晶(酸性塩)で，グラム陽性および陰性の球菌および桿菌，「スピロヘータ」，特に「リケッチア」および一部の「ヴィールス」疾患にも効果があり，なお「アメーバ」赤痢の原虫にも作用するという。

【適応症】 諸種の細菌による肺炎，腹膜炎，膀胱炎，「ブルセラ」症，淋疾，梅毒，発疹「チフス」，恙虫病，第四性病，不定型肺炎，百日咳，「アメーバ」赤痢，並びに種々の眼疾患などに応用せられ，就中，発疹「チフス」には卓効を奏し，100%の治癒を来すと報告されている。しかも再発および特別の副作用は，認められない。百日咳には，特に初期に使用すれば，屢々劇的効果が見られるという。

【用量】 発疹「チフス」には，初回より1「カプセル」(250 mg=0.25 g 入)宛を昼夜を通じて，4時間毎に内服せしめ，解熱後は間隔を6時間として，84 時間つづける。恙虫病にも，同様に使用して奏效する。

「クロロマイセチン」 Chloromycetin：

腸「チフス」および「パラチフス」に対して效果が期待され，また細菌性赤痢にも有效であるという。

【用量】 アメリカの文献によれば，「チフス」には，最初に 2-3 g を与え，その後1-3 g を 4-6 回に分けて投与し，9-14 日におよぶ(全量 25-30g)。余り早く投薬を中止すると，再発をおこし易いという。本邦における経験では，最初に大量を与える必要はなく，且つ毎回の量を半分位に減じてよいらしい。

「テラマイシン」 Terramycin：

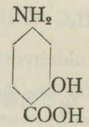
土壌より分離された Streptomyces rimosus の培養濾液から得られたもので，1950 年 Finlay などによつて発表された，最も新らしい抗生物質である。

臨床上の応用範囲は，「オーレオマイシン」と同様に頗る広く，グラム陽性および陰性菌，好気性および嫌気性菌，「リケッチァ」並びに或る種の「ウィールス」に対して有效であるという。経口的並びに皮下注射により，速かに吸収され，最近には，細菌性赤痢，および疫痢，または淋疾にたいする效果が報告されている。副作用は著明でない。

【用量】 赤痢に対しては，大人では，初回に 0.5g，次で 4-6 時間毎に 0.125g 宛，小児には，初回に 0.2-0.25g その後6時間毎に 0.1- 0.125g 宛，2-5 日間投与。なお眼科においては，急性「トラコーマ」その他にたいし軟膏 (0.1% など) として用いられる。

4. 「パラアミノ・サリチル」酸(PAS)

「パラアミノ・サリチル」酸 *Para-aminosalicylic aicd*(PAS)：



は，約 50 年前(1902年)に合成されたものである。10 年前 (1940-41 年)に，Bernheim が，結核菌の酸素消費量は，「サリチル」酸および安息香酸によつて増加する事を認めたのが動機となり，1943 年にスウェーデンの Lehmann は，この両者に類似した化合物で，結核菌の酸素消費量を抑制するものはないかと考え，その誘導体のうちで，PAS が最も有效なことを認めた。次でこれを臨床上に用い，その後，結核治療剤として広く使用されるに至つたのである。

PAS は，試験管内では，結核菌に対して著明な発育阻止作用を呈するが，他の種の細菌にたいする発育阻止作用は弱い。「ストレプトマイシン」に対して抵抗性を有する結核菌にも作用する。その效力は「ス」に及ばないが，経口的に投与することができ，毒性が少なく，且つ長く使用しても，「ス」のように速かには，菌に抵抗性を生じない。それ故，好んで「ス」と併用せられる。

【適応症】 「ス」とほぼ同様に，肺結核の急性滲出性病変に最も有效で，喉頭結核および腸結核並びに新らしい滲出性腹膜炎にも有效であるが，粟粒結核および結核性髄膜炎には，あまり有效でない。結核性膿胸に対し，「ス」は無效であるが，PAS を局所に応用すれば，化膿は速かに軽快し，一般状態もよくなる。

【副作用】 本剤は毒性が少ないため，大量に使用しても危険な症状を起すことはないが，屢々胃腸障碍，すなわち食慾不振，胃部不快感，悪心，稀に呕吐または下痢をおこすことがある。軽度の胃腸障碍は，二三日休薬すれば，すぐ消失する。本剤の連用中，尿に蛋白，糖，赤血球の出現を見ることがあるが，肝臓の機能は障碍されない。

【製剤及用量】 PAS は，白色の結晶で，水に溶け難いが，Na 塩はよく溶ける。結晶は，室温では殆んど分解しないが，酸性の溶液では，殊に加熱するときは，結核に対して效果の少ない「アミノ・フェノール」と無水炭酸とに分解する。中性または「アルカリ」性の液は，室温では安全であるが，10% の液を 20 分間 120 度に熱すると，約 10%破壊される。それ故，PAS の溶液を消毒するには，加熱滅菌を避け，ザイツの濾過器で，濾過しなければならない。本剤には，酸の形のものと，Na 塩との二種が製造されているが，後者の方が副作用が少ない。

用量は，通常 1 日量 10 g 位までを，持続的に内服させ，または 1 週間連用後，1 週間休薬し，これを反復する。膿胸には，市販の滅菌 10%液を連日局所に注入する。

5. 「チオセミカルバゾン」

本剤(Tb 1)は，$CH_3CO\cdot NH$-⟨⟩-$CH=N\cdot NH\cdot CS\cdot NH_2$ なる化学式を有し，化学名は 4-Acetylaminobenzaldehyde-thiosemicarbazone で，ドイツでは Conteben，アメリカでは「チビオン」Tibione なる名称で，発売されている。「プロントジル」の発見者なる Domagk が試験管内において，本剤が人型結核菌に対し，顕著な発育阻止作用を有すること，および動物試験でも有效なことを証明し，次でドイツで多数の結核患者に試みられた。その結果によれば，肺結核，殊に新らしい滲出性肺結核，喉頭結核，腸結核，泌尿器結核，皮膚結核，殊に尋常性狼瘡には有效で，膿胸も局所的使用によつて治癒するという。しかし粟粒結核および結核性髄膜炎には適せず，骨および関節の結核には效果は明らかでなく，少数例の結核性腹膜炎にも有效だつたという。但しその效果は「ス」には及ばない。ただ長期間連用しても，抵抗性菌の発生は少ないといわれる。懸念されるのは，その副作用である。

【副作用】 使用の当初に食慾不振，呕気，呕吐などを屢々おこすが，服薬をつづけている間に消失するのが常である。注意すべき副作用としては，稀に貧血および顆粒細胞消失症を起すことがあるので，本剤を連用する際には，時々血液検査を行う必要がある。また本剤は，多少肝臓を侵し，肝の脂肪変性をおこす傾向があるので，この点にも留意するを要する。これらの変化の発生を早期に認めて，服薬を中止すれば恢復する。

【製剤及用量】 本剤は，水には殆んど溶けない，少しく黄色を帯びた結晶性の粉末である。
経口的に与えるのであるが，最初は少量(1日10-20mg)より始め，患者の自覚症状と他覚的所見とより，徐々に増量して1日量100mg(0.1g)に及び，これを長期間内服させる。膿胸には，0.1-0.5mg を生理的食塩水に浮游して，1週1-3回注入する。

〔附〕「エチルヒドロクプレイン」

「エチルヒドロクプレイン」，即ち「オプトヒン」または「レミジン」は，「キニーネ」の一誘導体であるが，「マラリア」にたいしては毫も作用がない。しかし，一つの強力な消毒剤で，特に肺炎球菌を試験管内では 1:3-400,000 の濃度にて死滅させる。從前は，白「マウス」の肺炎球菌伝染にたいして化学療法的作用があると主張せられたが，かような作用はない。このものは眼の肺炎球菌伝染(匐行性角膜潰瘍)に用いられ(1-2%塩酸「オプトヒン」液)，時としては「クループ」性肺炎にも内用せられる。しかし，その效果は確実でなく，且つ「キニーネ」よりも視神経にたいする親和力が強く，持続的の視力障碍を残すことがあるから，漸次にその応用を減ずるようになつた。「クループ」性肺炎の際に用いるには，初めの3日間のみ，塩基性「オプトヒン」(または「レミジン」) 0.2宛を1日4回「オブラート」に包んで与え，その際常に少量の牛乳を同時に飲用させる。空虚な胃には与えぬがよい。

【製剤及用量】 **塩酸「オプトヒン」** Optochin hydrochlor.(塩酸「レミジン」). 無色の結晶で，水に溶解する。末，または眼科用2%液として販売せられる。

処方例	塩酸レミヂン	0.1-0.2	Rp. Remijin hydrochl.	0.1-0.2
	蒸溜水	10.0	Aq. dest.	10.0
	以上点眼		S. 1-2×stündl. je 5 Tropfen	
	毎時1-2回5滴宛		(Augentropfen bei Ulcus serpens	
	(肺炎球菌による匐行性角膜潰瘍)		corneae durch Pneumococcus)	

塩基性「オプトヒン」 Optochinum basicum(「オプトヒン」，「レミジン」). 白色の殆んど水に不溶性の粉末である。これは塩酸「オプトヒン」よりも徐々に吸收せられ，且その作用が緩徐である。内用には1日4回0.2宛「オブラート」に包んで与え，少量の牛乳と共に飲用させる。外用には，眼に1-2%の軟膏或は「オレフ」油溶液として用いられる。

処方例	オプトヒン(=レミジン)	0.2	Rp. Optochin(=Remijin)	0.2
	乳糖	適宜	S. l.	q.s.
	以上爲1包		F. pulv.	
	1日4回1包宛		S. 4×tägl. 1 Pulver	
	「オブラート」に包み牛乳と共に服用		in Oblaten mit Milch z. n.	

D. 「アメーバ」赤痢にたいする薬剤

1. 「エ メ チ ン」

吐根そのものの作用については，祛痰剤の部において述べた(第139頁参照)。「エメチン」は吐根中に含有せられる「ツェファエリン」 *Cephaeline*, $C_{28}H_{38}O_4N$ なる「アルカロイド」の「メチル」化合物である。

「エメチン」は，「アメーバ」赤痢の際に特效的作用を呈する。それ故，塩酸「エメチン」0.02-0.04を3-5日間にわたり，1日1-2回，筋肉内或は稀に静脈内に注射する。蓄積の危険があるから，ついで7-10日間の間隔をおき，その後「アメーバ」の所見に応じて上記の治療を反復する。下痢の数は，往々すでに24時間後に著しく減じ，同時に「アメーバ」は糞便よりなくなる。

「エメチン」の作用は，赤痢「アメーバ」の発育を著しく抑制するに基づき，殊に「アメーバ」の分裂を妨げるによる。試験管内では1:5000,000の濃度にて，既にかような作用をみとめうるが，動物の実験的感染にたいしては效が見られない。侵されるのは赤痢「アメーバ」の繁殖型のみで，「アメーバ」嚢胞(持続型)は侵されない。「エメチン」の作用は，血路によつて行われるのであるから，肝膿瘍の始まつた際にも作用がある。これに反して，他の「アメーバ」にたいする既知の薬剤(「ヤトレン」)などは，腸潰瘍中に集合した「アメーバ」にたいして，局所的に作用するのみである。それ故，「エメチン」は，「アメーバ」赤痢の際に化学療法的作用を呈する唯一の物質である。

「エメチン」は頗る強く蓄積する。それ故，致死量を動物に与えるときは，往々5日の後になつ

て初めて作用し，動物は重症の肝臓傷害にて死ぬ，人では，「エメチン」は主として毛細管毒として作用し，急性腸炎，脳症狀(咀嚼一，嚥下および言語障碍)，および往々肝臓の変性をおこす。

この他，「エメチン」は，肺「ヂストマ」にも皮下または靜脈内注射として試みられ，また大腸「バランチヂウム」による赤痢，および腸「ランブリア」による腸障碍にも試みられる。

【製剤及用量】 **塩酸「エメチン」** Emetinum hydrochloricum, $C_{29}H_{40}N_2O_4 \cdot 2HCl + 3H_2O$, 白色或は殆んど白色結晶性の粉末で，水に容易に溶解し，中性或は弱酸性の反応を呈する。「アメーバ」赤痢には，3-5 日間にわたり 0.02-0.04(「アンプル」入)を，1 日 1-2 回筋肉内(稀に靜脈内)に注射し，7-10 日の後に，さらに反復する。極量 1 回(皮下注射)0.05。

〔附〕「ヒドロリコリン」

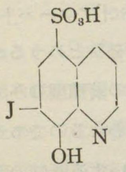
石蒜(「ヒガンバナ」) Lycoris radiata なる，路傍に自生する多年草の中には，「リコリン」Lycorin, $C_{16}H_{17}NO_4$ なる「アルカロイド」が含有せられ，それを還元してえた「ヒドロリコリン」，$C_{16}H_{19}NO_4$ は催吐作用が弱く，しかも原虫にたいしては，「エメチン」のような毒性を呈するという(森島)。「アメーバ」赤痢または肺「ヂストマ」に際し，「エメチン」に代用せられる。

【製剤及用量】 **「メリジン」** Melysin. 塩酸「ヒドロリコリン」の 5 %水溶液で，1 回 1 ccm 宛 毎日或は隔日に皮下(または靜脈内)に注射する。

2. 「ヤトレン」

「エメチン」の他に，「アメーバ」にたいする薬剤として知られるのは，「ヤトレン」105,「アクリノール」(「リヴァノール」)，および「アセタルゾール」(「スピロチッド」)である。就中「ヤトレン」(「キノヨヂン」)は，「エメチン」に比べると殆んど無毒な物質であるが，しかし「エメチン」のような，深部にある「アメーバ」病巣にたいする化学療法的の作用はない。

「ヤトレン」105 は，「ヨード・オキシキノリン・スルホン」酸中の，「スルホン」酸を重炭酸「ソーダ」にて置換したものである。殆んど局所の刺戟作用がなく，有效物質は，すでに 5-10 分にして尿中に証明せられ(塩化鉄反応)，5 時間の後には完全に排出せられる。それ故に蓄積をおこす危険はない。



「ヤトレン」

このものは，急性および慢性「アメーバ」赤痢にたいして，腸消毒剤として用いられ，特效的に作用する。一部は内服させ，一部は浣腸として用いられ，その際 腸の内腔より達しうる寄生虫の一部のみが侵される。 また非経口的応用にては無效で，從つて肝膿瘍にも作用しない。

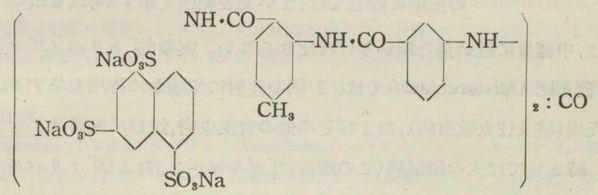
「ヤトレン」は毒性がなく，時として胃腸を刺戟して嘔吐および下痢をおこすのみである。また治療中は，同時に緩和な下剤として作用する (糞便は暗綠色を呈し，稀薄となる)。

【製剤及用量】 **「キノヨヂン」** Chinojodium (**「ヤトレン」** Yatren 105,「ピリフォルム」Pyliform,「ヤピオール」Yapiol). 淡黄色ないし帶褐黄色の粉末で，無臭，弱い刺戟性の苦味があり，後に甘味を呈する。「アメーバ」赤痢に際し，1 日 3 回 2-4 丸宛(1 丸＝0.25)，約 10 日間内服させ，同時に夕方 1.0-1.5%液 200-300 ccm を持続注腸する。

E. アフリカ睡眠病にたいする薬剤

「ゲルマニン」

白鼠の「トリパノゾマ」伝染に有效な「アゾ」色素の構造を変化させることにより，人の睡眠病にたいして生命を救助する作用のある，一つの芳香性尿素「スルホン」酸がえられた。このものは化学療法的係数 1:80 を有し，「ゲルマニン」または Bayer 205 号と呼ばれる。



「ゲルマニン」

人の睡眠病は，周知のように Trypanosoma Gambiense によつておこされ，或る種の蠅の刺すことによつて，伝播される。治療しなければ致死的経過をとるもので，一般に，本病にかかつて自然に治癒する者があるか，否かは頗る疑わしい。ところが，伝染の早期に「ゲルマニン」を用いるときは，效力は確実であつて，從つて今日は何らの心配なしに，実験的に自家感染をおこしうるほどである。1 回注射すれば，その後，化学療法的作用は約 3-6 カ月間もつづき，この期間中に新しい伝染にたいして保護せられる。この注目すべき予防的作用のあることにより，「ゲルマニン」は薬剤中特別の位置を占めている。「ゲルマニン」の水溶液は，膠様の硬度をもつから，それによつて血液の「コロイド」性狀が変化する。こうして凝固を抑制する作用があるために，時として凝塞(血栓症)の危険がある際に用いられる。恐らく，かような「ゲルマニン」の物理的性狀のために，容易に運動しうる「トリパノゾマ」も運動しえなくなり，そして恰も鳥が「トリモチ」に捕えられたようになつて，死滅するものであるらしい。しかし，「ゲルマニン」は，鞭毛虫類の糖質代謝にたいして一定の阻止作用を有するとの見解もある。

【製剤及用量】 **「ゲルマニン」** Germanin (Bayer 205). 苦味のある粉末で，5 %水溶液或は温かい食塩水溶液として用いられる。1 週間に 1 回 0.5-2.0g を靜脈内に注射し，全量 5-10g にいたる。

F. 吸虫類にたいする薬剤

「アンチモン」剤

「アンチモン」は，砒素および蒼鉛と共に，元素の週期系の第 5 群に属し，同時に最も強い化学

療法的の作用ある化合物をつくる。この「アンチモン」は3価の形(吐酒石，酒石酸「アンチモン・カリウム」,「フアヂン」)，または5価の形(「スチボサン」および特に「ネオスチボサン」) として用いられる。

吐酒石
(=酒石酸「アンチモン・カリウム」)

吐酒石は，3価の「アンチモン」を有する最も重要な化合物で，局所性腐蝕作用があり，そのために強い催吐作用がある。すべての催吐作用のある物質と同様に，少量にては気管支粘液腺の分泌を旺盛にし，それによつて祛痰作用を呈する。

この吐酒石は熱帯医学における最も重要な治療剤の一である。多くの伝染に際しては，よい薬效範囲を示すが，或る伝染では效力を発揮させるためには，中毒量に近い量を用いなければならない。実験的「トリパノゾマ」伝染，および動物の寄生虫病(例えば Opistorchiasis)では，1回の注射にて速かに作用を呈する。人にあつても，ビルハルツ氏病(埃及住血吸虫病)，およびその他の寄生虫病，竝びに皮膚リイシュマン氏病の治療に用いられ，時としては人の睡眠病(この際には「ゲルマニン」および「トリパルザミッド」の方がよい)，竝びに家畜の多くの「トリパノゾマ」伝染にも使われる。なお鼻硬化症の治療，或は多発硬化症にも試みられる。その作用の機序は，直接伝染病原体に影響を与えるものではなく，むしろ「アンチモン」は，未知の物質代謝産物を生じ，それが病原体を死滅させるのである。それ故，身体が消耗している際には，最早，かような有效な物質を生成しえない。

腐蝕作用があるために，吐酒石は靜脈内のみに用いられる。そうすると，「カリ」を含有するために，強い心臓作用が現われる。それ故，酒石酸「アンチモン」の「ナトリウム」塩(「**スチブナール**」)の方が，よく堪えられる。從つて「スチブナール」は，日本住血吸虫病，竝びに肝臓「ヂストマ」に際しなるべく早期に用いられる。慢性症では，すでに肝臓に固定的の変化ができているから，效力が著明でない。肺「ヂストマ」には效果が確実でない。その他の著しい進歩は「**フアヂン**」の応用である。このものは「ブレンツカテヒン・ヂスルフォン」酸に，「アンチモン」群の結合したもので，そのために局所の腐蝕作用が殆んどなく，しかも吐酒石に見られる化学療法的作用は，完全に発揮せられる。

三価の「アンチモン」は，どんな形にても強い毒作用のあるのが特有であるから，厳にその使用法に注意しなければならない。それは一つの毛細管-，心臓-，肝臓-および腎臓毒であつて，これらの臓器に往々恢復し難い重症の組織的変化をおこす。特にこれらの器官が，前から罹患している場合，竝びに栄養不良者および老衰者には危険である。

これに反して，五価の「アンチモン」は，かような毒作用が遙かに少ない。しかし生むらくは，吐酒石に相当する五価の化合物は，化学療法的作用も遙かに弱い。

それ故，「サルヴァルサン」に類似する，「アンチモン」の「ベンツォール」誘導体なる「**ネオスチボサン**」(「ネスボサン」)が合成せられたことは，大きな進歩であつて，それは動物試験において

良い薬效範囲を示す。このものは殆んど無害で，「カラ・アザール」の伝染にたいして頗る有效であるという。

この他 最近には「アンチモン・コロイド」が，睡眠病，「カラ・アザール」，「フィラリア」症などに試みられている(宮川)。

【製剤及用量】 **吐酒石** (酒石酸「アンチモン・カリウム」) Stibio-Kalium tartaricum, Tartarus stibiatus, $C_2H_2(OH)_2(CO_2K)(CO_2SbO)+{}^1/_2H_2O$. 細小透映の結晶或は結晶性の粉末で，17倍の冷水に溶解する。靜脈内には1-5%溶液を用いる。「カラ・アザール」には，吐酒石 0.02-0.10 を，初めの 5-10 日間には毎日，ついで 2 日目毎，最後に毎週 2 回，全体として 2.5g を注射する。「ビルハルチア」には，初めに 0.06，後には 0.12g を 2 日目毎に注射し，全量 2g にいたる。「フィラリア」にも同量を用いる。 極量 1 回 0.1，1 日 0.3。

「**スチブナール**」 Stibnal (酒石酸「アンチモン・ナトリウム」 Antimonylnatriumtartarat, $C_4H_4O_7SbNa$ を 0.3% の割合に 5% 葡萄糖液に溶解したもの)。日本住血吸虫または肝臓「ヂストマ」にたいして 20-50ccm 宛隔日または 3 日目毎に靜脈内に注射し，約 15-20 回にいたる(治療期間約 1-2 カ月)。

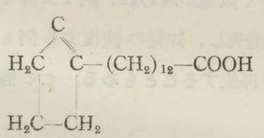
「フアヂン」 Fuadin,「アンチモン・ブレンツカテヒン・ヂスルフォン酸ソーダ」. 第四性病，住血吸虫病などに 5ccm 宛筋肉内注射。

「**ネスボサン**」 Nesbosan (「ネオ・スチボサン」 Neostibosan), p-「アミノフェニル・スチビン酸ヂエチルアミン」. 水溶性の黄褐色の粉末で，「カラ・アザール」，第四性病，または皮膚リイシュマン氏病に際し，0.2-0.45g までを 5-20%液として，隔日に 1 回，筋肉内或は靜脈内に注射する。

G. 治 癩 薬

1. 大風子油

大風子油は，古くより癩病の治療に用いられ，有效物質は恐らく大風子酸 *Chaulmoogric acid* または *Hydnocarpic acid* で，このものは次の構造を有する一種固有の有機酸である[1]。



この酸は，他の有機酸と同様に，水溶性の「ナトリウム」塩および酸「エステル」，例えば「エチル・エステル」(「ヒドノカリン」)を形成する。この「エチル・エステル」は，もはや大風子油のような強い刺戟作用をもたない。内服，或は靜脈内，または筋肉内注射として用いられ，時としてはこれを大量の「ヨードカリ」と併用する。

癩病の症状は，自然的に著しい動揺を示すから，治療成績の判断は頗る慎重でなければならぬが，大風子油と共に，局所の合理的治療を行うときは，臨牀上治癒する場合が頗る多いことは，多數臨牀家の見解が一致するところである。

【製剤及用量】 **大風子油** Oleum Hydnocarpi. 後インド，マレイ，ビルマ地方に産する Hydnocarpus 属植物の種子を圧搾してえた脂肪油で，類白色或は類黄色を呈する軟膏様の塊をなし，微に特異の臭気をもつ。1 日 2-4 滴を与え，漸次増量して 1 日 2 回 50 滴宛にいたる。

1) 大風子油によつて，或る程度まで治療效果の認められるのは，癩菌の体内に存する脂酸に近似する脂酸を含有するためで，そのために大風子油の脂肪によつて，菌体に固有な脂質が置換せられるによるらしい。

「ヒドノカリン」Hydonocarin. 大風子油の総脂肪酸の「エチルエステル」で，油状液である。1 日 3 回 0.3-5g 宛を，増量しつつ膠嚢に入れて食後に服用させ，または筋肉内に 1 回 1 ccm より漸次に増量しつつ注射する。

「ヒドノール」 Hydnol. 大風子油の「ヒドノカルプ」酸「エチルエステル」に少量の「ヨード」を添加したもの。1 日 1ccm より漸次増量しつつ筋肉内注射。

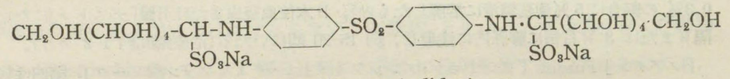
大風子酸「エチル」。

大風子油丸 Pilulae Olei Hydnocarpi(準局)。

2. 「スルフォン」剤

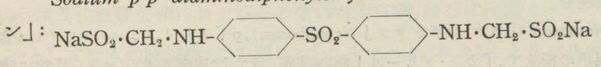
「スルフォン」剤中，治癩薬として用いられるものは，「プロミン」，「ダイアゾン」および「プロミゾール」である。[1]

「プロミン」: Promin



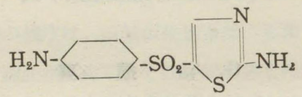
Sodium p-p'-diaminodiphenylsulfone-n-n' didextrose

「ダイアゾン」: Diason



Disodium formaldehyde sulfoxydate diaminodiphenyl snlfone

「プロミゾール」: Promizole



2·4'-Diamino-s-thiazole phenylsulfone

【臨牀的効果】「プロミン」は，静脈内注射として用いられ，皮膚の結節は，ほぼ 1 カ月頃より吸収し初めて扁平となり，或は，充血-軟化-自潰-瘢痕治癒の経過をたどる。潰瘍は，乾燥し，痂皮を生じて瘢痕・治癒する。粘膜の結節および浸潤には，最も早く効果が現われ，約 1 カ月で，鼻閉塞，呼吸困難，嗄嘶などが軽快し初める。斑紋は，徐々に消失し，知覚の恢復する例もある。神経症状にたいしては，あまり効果はないが，頭髪・眉毛の再生することもある。この他，癩性角膜炎の軽快を見，赤沈は僅かに遅延する。

鼻粘膜中の癩菌は，消失あるいは減少するが，皮膚病変部の菌は，減少しても，皮下組織中にあり，毛細血管壁には長く残存する。菌は，次第に断裂して顆粒化し，抗酸性を失う。また光田氏反応は，稀に陽転することもある。

以上は，「プロミン」注射の効果であるが，「ダイアゾン」および「プロミゾール」も，殆んど同様の効果を挙げうるから，注射に堪えない患者に使用される。

【副作用】「スルフォン」剤の副作用なる貧血は，癩では著明でなく，稀に白血球減少症，血尿などが見られ，また悪心・嘔吐・頭痛・食慾減退・「アレルギー」性皮膚炎を起すこともあるが，軽微である。

1) 「スルフォン」剤は，「ネズミ」癩には，あまり効果がない

最も癩患者を悩ますものは，癩性結節性紅斑(熱瘤)による発疹，および発熱である。これは，多く注射開始後 10 日目位に現われるが，休薬および減量によつて消退させうる。

【製剤及用量】「**プロミン**」Promin. 吸湿性の白色結晶で，「アルコール」に難溶，「エーテル」，「ベンゼン」に不溶。冷水には溶け易く，水溶液は弱酸性を呈する。本剤は，静脈内注射により，迅速に血中濃度が高まるが，排泄も早い。

臨床的には，内服には堪えられないから，静脈内注射が行われ，また軟膏として局所的にも使用される。使用法としては，1 週 6 日，1 日 5 cc. (1.5 g) を静脈内に注射し，1 日休む。この方法を 4 カ月継続し，後 3 週間休む。以上を 1「クール」として，中途に副作用が現われたならば，臨時に休薬する。しかし近時は，1 日 1 cc. の少量を用いて，熱瘤の発生を予防しうる例が，かなり多く，減量しても効果はあるといわれる。

「ダイアゾン」 Diason. 白色の針状または板状結晶で，水には溶け易く，「エーテル」，「アルコール」には不溶。通常 4 分子の結晶水を有し，空気中では不安定で，吸湿・分解して，不溶性となる。本剤は内服しうる。使用法は，最初 1 日 1 錠とし，漸次増量して，2 週後には 2 錠，数週後には，1 日 3 回 1 錠宛 内服させ 2 カ月毎に 2 週間の休薬期間をおく。小児および腎疾患のある者には，適当に減量する。(1 錠は 0.324 g)。本剤は，胃を害する傾向がある。

「プロミゾール」 Promizole. 白色の針状結晶で，冷水には稍々難溶(0.03%)，「エーテル」「アルコール」には可溶，稀鉱酸，「アセトン」に易溶である。使用法は，経口投与とする。最初の 2 週間は，1 日量 1.5 g (3 錠) を，1 日 3 回，食後 30 分に分服，以後は，1 日 2.5 g (5 錠) を，同様に 3 回に分服し，6 カ月間連用し 1「クール」とする。時には，患者の耐性に応じて，1 日 1-2 g を連用し，休薬期間を 2 カ月に 2 週間とすることもある。小児，腎疾患の者には減量する。本剤服用の際には，等量の重曹と共に，なるべく大量の水を飲用するのが良いとされる。(1 錠は 0.5 g)。本剤は胃腸を害さず，むしろ食慾を増進する場合もある。

第十五章　免疫及変調療法

A. 抗　毒　素

抗毒素による治療法は，1891 年 Behring および北里によつて創始せられた。いま一定の動物に「ヂフテリア・トキシン」(それは Roux の方法により，「ヂフテリア」培養より容易にえられる)を，増量しつつ注射するときは，試験動物の「トキシン」にたいする抵抗力は速かに高まる。例えば，馬に 1 ccm の「トキシン」より始めて，この量を漸次に増量しつつ 1「リーテル」に達することができる。かような馬は，2-3 年間にわたり，間歇をおいて毎週 1-2 回 10「リーテル」の血清を供給しうべく，この血清は試験管内竝びに生体内において，「ヂフテリア・トキシン」を解毒する性質がある。馬血清の抗毒素価の検定は，「モルモット」について行われる。即ち「モルモット」を「ヂフテリア・トキシン」の致死量の 100 倍にて中毒させ，そして中毒症狀を防ぐにたる抗毒血清の量を定める。この量を抗毒素単位 (A.E.) という。

抗毒素の生成は，「トキシン」の作用にたいする反応として，恐らく免疫動物の細網内皮細胞内において行われ，しかも數カ月ないし數年間にわたり，遙かに過剰な量が生成せられる。「トキシン」の毒性が高ければ高いほど，多量の抗毒素が生成せられ，また一定の馬は，特にこの目的に適している。この他，免疫血清の精製に際して，抗毒素は「プソイド・グロブリン」部の中に多量に含まれている。それ故，単位の高い製剤(「ヂフテリア」抗毒素)を作ることができる。

抗毒素は，特殊の「トキシン」にたいしてのみ作用し，細菌そのものには作用しない。抗毒素と「トキシン」との結合は，試験管内においては，化学反応におけるような一定の量的関係(化学量論的法則)に從つて行われるが，動物体内ではそれと異なつている。即ち生体内にては，血清中および組織液中に含有せられる「トキシン」部のみに結合せられ，これに反して，すでに細胞内に移行して，その処に固く鉤着した「トキシン」量をば中和しない。それ故，抗毒素の良い作用は疾病の始まりに見られ，後の時期になるほど效果は現われない。

抗毒血清は，かような原則に從つて製せられ，多くの場合には馬を免疫してつくる。そして実際上最も重要なのは，「ヂフテリア」および破傷風で，その他，赤痢，猩紅熱，「ガス」壞疽および嫌気性菌伝染，腸詰中毒，竝びに蛇毒にたいする抗毒血清もある。なお抗毒血清は，有毒な植物蛋白，「リチン」および「アブリン」にたいし，蜜蜂一，胡蜂(「キバチ」)および蠍(「サソリ」)毒などにたいしても得られる。同様の原理により，**抗菌血清**は，脳脊髄膜炎，丹毒，ワイル氏病，肺炎球菌(I および II 型)の伝染にたいし，または脾脱疽などにたいして製せられる。

もし病原体が不明な場合には，それに相当する抗原および抗体を製しえない。かような際には該病を経過して，その血液中に高い抗毒素価が含有せられていると考えられる人から得られる。この**恢復期患者血清**は，脊髄前角炎，麻疹の際，竝びに猩紅熱の際にも用いられる。

1. ヂフテリア抗毒素

抗毒血清は，注射に際して刺戟があつてはならない。また皮下注射では吸收が悪いから，実際上行われない。それ故，一般に臀筋の外上方，或は大腿四頭筋に筋肉内注射を行う。これに反して，靜脈内注射は毫も著しい利益がないから，一般に，危險が著しく大きい場合に，極めて稀に行われるのみである。筋肉内注射の後には，抗毒素価は 3-4 時間内に最高に達し，この被働的免疫は 2-4 週間つづく。

急性「ヂフテリア」の際における作用は，通常 12-24 時間内に現われ，熱は下降し，「ヂフテリア苔は変化を示す。その際，特殊の抗毒作用は，屢々馬血清の非特異性作用によつて覆われる。これは馬血清のために，各種の偶発事故が現われることがあるからである。即ち注射の直後に時として血管中枢の虚脱をみとめることがあるが，それは通常の興奮剤によつて速かに恢復する。他の場合には，時として，すでに 10-14 時間，多くは 7-10 日の後になつて，初めて**血清病**がおこる。これは一つの「アレルギー」性反応で，紅斑，蕁麻疹，発熱などが現われるが，これも同様に比較的無害と見做すべき現象で，「カルシウム」療法に反応する。なお血清を再注射する際には，**「アナフィラキシー」**を考慮しなければならない。かような感作は，最も早い場合には 10 日の内に現われて，數年間も存続することがある。もし「アナフィラキシー」性反応の危險がある際には，馬血清の代りに，牛または山羊の血清を応用することもできる。そうでない場合には，通常最初に ½ ccm の血清を注射して除感作し，よく堪えたならば 4-6 時間の後に，全量を注射する。しかし，それよりも良いのは，2 時間の間隔をおいて 0.1ccm より始めて，各注射の度毎に倍量に増加し，こうして全量を徐々に注射する。もし「アナフィラキシー」性症狀が現われたならば，直ちに注射を中止し，後に一そう注意深く注射をつづけるがよい。

用量は，疾病の進行した程度に関する。「ヂフテリア」の疑がある際には，1000-2000 単位にて充分である。「ヂフテリア」の初期における 1 日の用量は，通常小兒にても大人でも，体重 1 kg につき 500 単位を用いる。これは，人についての精細な測定の基礎の上に，確定せられた量である。喉頭症狀があるか，または重症の中毒性「ヂフテリア」で，循環虚脱を伴う場合には，往々 10,000 ないし 15,000 単位を要し，必要に応じて，翌日もこの量を反復注射する。これまでに用いられた最高量は 500,000 単位であるが，かような量を用いるには，単位の高い血清を使用しなければならない。注射は，早期に行うほど必要量が少なく，且つ疾病の予後もよい。

直接「ヂフテリア」の危險がある際にも，同様に抗毒素をもつて予防することができる。それには体重 1 kg につき 50 単位を要する。この被働的免疫は 2-4 週間にわたつて作用があるのみであるが，それと同時に「**アナトキシン**」Anatoxin，または「**ホルモール・トキソイド**」Formol Toxoid，或は **吸着接種材料**(「ホルモール・トキソイド」を水酸化「アルミニウム」に吸着させたもの)を使用するときは，自働的に抗毒素の生成を促がすことができ，こうすれば恐らく數年間に

わたつて保護作用がえられる。かような「アナトキシン」は「ホルムアルデヒード」で処置した「トキシン」で，その毒性は失われていて，しかも体内において抗毒素を生成させるものである。

近時の研究によると，多数の人間は，疾病を経過しなくても，その血清中に「ヂフテリア」にたいする保護物質を含有する。このことは**シック氏反応**(Schick)によつて証明しうる。この試験を行うには，シック氏検査のための「ヂフテリア・トキシン」を 1：10 に稀釈し，その 0.1-0.2ccm を腂の皮内に注射する。そうするとき，24-72 時間後に反応が陽性で，即ち限局性の潮紅を呈するならば，抗体の欠如する徴であり，換言すれば「ヂフテリア」にたいする感受性がある。この試験によると，新生兒は母より伝授するために，84%の場合に抗体を含み，第 2-3 才になれば漸次に減少して 28%となり，ついで再び 84%に増加する。それ故，伝染の懼れがある場合には，この試験によつて，各個人に予防注射を行うべきか否かを決定しうる。

「ヂフテリア」は，生活條件が自然的であるほど，緩和に経過するものである。[1]

【製剤】 **液体「ヂフテリア」血清** Serum antidiphthericum liquidum (1 ccm＝500 免疫単位).
「ヂフテリア」予防液(精製「ヂフテリア・アナトキシン」)
「ヂフテリア」毒素液(シック氏反応用)

2. 破傷風抗毒素

破傷風の抗毒素療法は，実際上においては予防の目的，竝びに早期の治療に用いられる。すでに破傷風の症狀が完全に現われた場合には，最高量を用いても多くは效がない。これは，破傷風「トキシン」が，一種の固有の拡がり方をするためで，即ち周知のように，感染巣より神経の軸索突起を游行して，その処より所属の神経細胞内に侵入するによる。かように固有の游行をすることは，神経を切断する際に中枢部の中毒がおこらないことによつて証明せられる。また中毒の早期症狀として，時として感染巣の部分に，限局性の筋肉硬固または筋肉痙攣が現われるのも，同様に説明できる。その処より中毒は，最初隣接する神経中枢におよび，それより後に全中枢神経系に波及しうる。その際に現われる全身痙攣は，恰も「ストリキニーネ」中毒に似て，反射的に誘起せられる。

破傷風「トキシン」は，游行する間のみ，抗毒素によつて中和せられうるもので，すでに「トキシン」が神経細胞に固着するときは，もはや抗毒素の作用を期待しえない。それは動物試験にても明らかに知ることができ，中毒の始まりに有效な量の 600 倍も，5 時間后になれば全く效がない。それ故，「トキシン」の生成せられる場所，神経中を游行する際，或は脊髄管内において，前角の神経細胞を侵す前に，捕えることを試みなければならない。

1) 「モルモット」を自然的に飼育する際に，「ヴィタミン」Cの一定量を摂取させるときは，それによつて「ヂフテリア・トキシン」にたいする抵抗力が高まることが明らかとなつた。

予防量としては 2500 単位を皮下に注射する。こうして戦時には多数兵士の生命を救助することができた。特に街道の塵埃，土壌，衣服片(「ボロ」)，釘，または木片にて汚穢せられたすべての創傷には，早期にこれを用い，時としては 7 日の後に注射を反復する。

治療量としては，12,500 ないし 25,000 単位を，時としては分けて用いる。その中，一部はまず創傷の周囲へ，他の部分は神経内，腰椎内，或は硬膜下に注射する。この他，「ホルモール・トキソイド」にて自働的免疫を行うことも可能である。

【製剤】 **液体破傷風血清** Serum antitetanicum liquidum (1 ccm＝600 単位).
破傷風予防液 (精製破傷風「アナトキシン」).

3. 蛇毒血清

蛇毒は，単一的な化学的物質ではなく，むしろ同じ蛇でも，常に多数の毒物を同時に生ずる。即ち「ノイロトキシン」，出血性，溶血性，或は凝血性「トキシン」など。化学的には，無蛋白の所謂「ザポトキシン」であり，「コブラ」蛇の毒よりは，12 種の「トキシン」が分離せられた。「コブラ」のような或る種の蛇では，「ノイロトキシン」の作用が主であるが，他のものでは，たとえ毒の中に「ノイロトキシン」が含まれていても，組織を破壊する「トキシン」の方が主である。

蛇毒にたいして生成せられた抗毒素は特異性で，個々の蛇の種類にたいして定型的である。今日は特異性に，或る一種の蛇の「ノイロトキシン」のみを中和する抗毒素を製しうるが，それは同じ蛇のその他の「トキシン」，および他の種類の蛇の「ノイロトキシン」をば中和しえない。

抗蛇毒血清は，馬を免疫してえられる。即ち馬に，徐々に蛇毒を増量しつつ注射することによつて得られる。かような馬は，血清をとる前に，蛇毒の致死量の 100 倍に堪えなければならない。その検定は，家兎および鳩について行われ，それに蛇毒の致死量を靜脈内に注射する。そして毒を注射する $1/2$ 時間前に免疫血清の一定量，例えば 2ccm を与えるときに，この致死量を解毒しなければならない。

【製剤】 飯匙蛇毒血清

B. 「ワクチン」

「ワクチン」とは，病原体を減弱，死滅，または煮沸してえられる産物をいい，このものは自働免疫の目的に使用せられる。

人にたいして，毒力の低い生きた微生体を以て自働免疫を行うことは，最初 **痘瘡**(天然痘)について行われた。接種材料は，無菌的に採取した牛痘の水疱内容物を，「グリセリン」に浮游させたものである。その中には，生きた牛痘の特殊病原体(ヴィールス)の他に，生きているか或は死んだ皮膚細菌も含有せられ，稀には帯狀匐行疹の病原体が含まれる(接種脳炎)。

しかし牛の淋巴中には，破傷風菌は見られない。それ故，極めて稀に見られる破傷風は，接種した創傷の続発伝染によつておこるのである。

充分な接種を行えば，たとえ全く確実ではないにしても，真性天然痘にたいして著しく保護せられ，それは 7 年間もつづく。

次にパストール Pasteur の接種法による**狂犬病**の予防は，有名な動物試験，即ち減弱した狂犬病「ウィールス」を以て犬を前処置するときは，その後，高毒な「ウィールス」に，もはや感染しないことに基づくものである。接種材料は，狂犬病にかかつた家兎の脳および脊髄で，その減弱は一定の乾燥法によつて行われ，それによつて任意の毒力をもつ接種材料がえられる。幸にも犬に咬まれてより発病までの潜伏期は，2-3 週ないし数カ月におよぶから，この期間にパストール氏法により自働免疫を行うことができる。咬まれてから長い時日をへているほど，免疫の望みが少ない。また頭部および頸部を咬まれた際にも，特に危険である。狂犬病に罹つている動物は，撲殺すべきで，その脳および脊髄にはネグリ氏小体をみとめる。

以上のような経験に基づき，死滅させた細菌体の注射も行われる。それは例えば，腸「チフス」「コレラ」，「ペスト」(いずれも持続的後天性免疫をのこす伝染病)などの予防，或は淋疾，または「フルンケル」の治療に用いられ，これによつて，細菌体にたいする特異性の抗体：即ち凝集素，「オプソニン」，溶菌素および殺菌性物質を発生させうる。同様な抗体の移動は，周知のように，所謂 非特異性刺戟療法によつても，或る程度まで誘発せられる。

腸「チフス」の予防には，死滅させた「チフス」菌の注射が行われ，その際には「チフス」菌にたいする特異性抗体が血液中に出現する。今日は，同時に「パラチフス」にたいする免疫をも行う。かような「ワクチン」を人に注射するときは，体温上昇，白血球増多などのような全身症状の傍ら，2-4 日後，或はそれよりも遅くなつて，血液中に特異性抗体が現われる。この免疫体は 1-2 年間血液中に証明しうるが，しかし予防の効力は 9 カ月間つづくのみである。それは血液中の抗体は，免疫に伴う一つの現象であつて，決して免疫の本態ではないからである。免疫の本態は，むしろ組織細胞の特異性変調に帰すべきであるらしい。

この他，一度罹病しても免疫の貼らないような伝染病にたいしては，「ワクチン」の注射を行つても予防的効果は見られないのが当然である。

B.C.G. (Bacillus Calmette-Guérin)は，毒力の弱い牛型結核菌であるが，その皮内接種は，統計上，多少とも結核の発病率と致死率の低下を来すことが示された。これは，結核の際における免疫は，不完全であるから，絶対的な効果が見られないのである。

C. 変 調 療 法

変調(転調)療法は，今日非特異性刺戟療法，または蛋白体療法と同意義に用いられる。蛋白質を非経口的に与えるときは，全物質代謝に動搖を来し，その結果，毒物または伝染にたいする感

受性に変化がおこり，且つ免疫状態にも変化が現われる。これに属するのは，「カゼオザン」，「オムナヂン」などのような蛋白製剤，硫黄および硫黄含有剤，「ヤトレン」，細菌毒，特に煮沸した牛乳(1週に 1-7 回 2-10 ccm 宛筋肉内)の他，「マッサージ」，お灸，入浴療法，光線療法，気候療法，「ヂアテルミー」のような物理的方法も，これに数えられる。その際には，局所および全身反応が現われる。

なお注射の部位における局所作用の他，病巣反応が現われる。それは病的に変化した組織は，明らかに非特異性刺戟にたいして，特に過敏であるから，急性炎症性現象がおこるのである。それ故一定の疾病，例えば慢性炎症性関節病および筋肉「ロイマチス」，慢性子宮附属部炎，淋疾性副睾丸炎，竝びに或る種の皮膚病などでは，かような病巣反応によつて，良い治癒作用をおこすことがある。また潰瘍の疼痛も，止むことがある。全身反応は，蛋白質の種類竝びにその用量によつて頗る異なる。

その他，蛋白質を非経口的に注射するときは，免疫現象の亢進することは，動物竝びに人について証明せられたところで，それは恐らく細網内皮細胞の機能亢進と関係があるらしい。従つて貪喰現象は盛んとなり，「オプソニン」含量，および殺菌作用は増加し，竝びに凝集価のような特異性免疫体の増加をみとめる。かような作用によつて，或る程度まで伝染にたいする抵抗力も高められるものと考えられているが，しかし必ずしも常にそうとは限らない。

特殊変調療法[1]は，肺結核，特に慢性肺結核の治癒を促進する目的に応用せられ，それには特に結核菌にたいする身体の抵抗力(または防衛力)を増進するものとして，「ヘテロザート」(「チフス」菌および淋菌の一定の菌株の混合自家融解産物)が試みられつつある。これは抗生物質ではないから，長期間使用しても，菌に耐薬性をおこす恐れがない。それ故，適応に応じて，化学療法，外科的療法および安静療法と併用することにより，良い効果が期待されている。

【製剤及用量】「**カゼオザン**」Caseosan. その 1 ccm=「カゼイン」0.05 に相当する。$^1/_2$-1 ccm 宛を筋肉内に注射する。

「エリオザン」Eryosan. 純「カゼイン」の 3%滅菌注射液。最初 0.5ccm より 1-3ccm を皮下または静脈内に注射する。

「**ヤトレン・カゼイン**」Yatrencasein (「ヤピオール・カゼイン」Yapiolcasein).

「**オムナジン**」Omnadin. 蛋白体，胆汁「リポイド」および動物性脂肪酸の混合物である。2-3 日毎，時としては毎日 1-2 ccm 宛を皮下或は筋肉内に注射する(静脈内には用いない)。

「**オムニン**」Omnin，「スチミン」Stimin，「エルスチン」Erstin，「ムルチン」Multin.「ノボプロチン」Novoprotin なども同様の製剤である。

沈降硫黄 Sulfur praecipitatum. 慢性「ロイマチス」などの際に，筋肉内に注射せられる。これには 2mg(「オレフ」油中における 1‰溶液 2ccm)より初め，中等度の反応の現われるまで用量を増加する(例えば 5mg)。次回の注射は，反応が消失した後でなければならない。例えば 1 週 1 回，全体として 6-8 回注射する。但し衰弱者または心臓病者には禁忌である。

1) *Hetero-specific Alteration Therapy*, hetero-spezifische Umstimmungstherapie.

「スルフロール」Sulfurol,「サルファン」Sulfan. 硫黄及「アミノ」安息香酸「エチル」を含有する油剤で，発熱療法の目的に筋肉内に注射する。

「チオ」硫酸「ソーダ」 Natrium thiosulfuricum, $Na_2S_2O_3$(「ハイポ」,「デトキソール」). 無色透映の，水に溶解し易い結晶である。このものを注射するときは，大量の H_2S および Na_2S が血液および組織内に現われ，硫化水素は強い化学的親和力を有するから，例えば水銀・錫または砒素，「サルヴァルサン」のような重金属による中毒に際して，解毒の目的に，特に皮膚傷害の治療に用いられる。また「ヨード」中毒，青酸中毒などの際にも用いられる(10%液として 5-10ccm 靜脈内)。

索　引

A

アイロール…… 494
アガリチン…… 220,221
アギ…… 177
アクリノール…… 470,471
アクリフラビン…… 320,470,471
アグリン…… 312
アコイン…… 437
アコニチン…… 439
アジア丸…… 457
アスピリン…… 191,193
————錠…… 194
アスコルビン酸…… 392,394
アストモリジン…… 134
アセタルゾール…… 505
アセチル・サリチル酸……191,193
————テオブロミン…… 312
————タンニン…… 272
————合成…… 62
————ヒヨリン…… 209,211
アセチレン…… 155
アセトアニリッド…… 184
アセトスルファミン…… 517
アダリン…… 166
アチドージス…… 322
アチドール…… 238
————ペプシン…… 238
アヂブロン…… 517
アテブリン…… 513
アテリアン…… 517
アトニン…… 97,282,405
アトファン…… 196
アトムラチン…… 128
アピトロン……
116,134,135,215,216
アドレナリン……
94,134,205,339,399
アドソルビン…… 280
アナトキシン…… 535
アナフイラキシー……29,535
アナブトール…… 425
アナルゲシン…… 437
アニース油…… 243,280
アヌゾール…… 494
アネステジン…… 249,432,437
アビレキシン…… 192
アフリカ睡眠病にたいする薬剤……
…… 529
アブフリン…… 268
アペラグリン…… 392
アペリトール…… 268
アヴエルチン…… 156,158
アミド・アゾ・トルオール…… 479
アミノピリン…… 188
————錠…… 189
————メタン
スルホン酸ソーダ…… 189
アミノ安息香酸エチル……
249,432,437
アミノコルヂン…… 88,89,126
アメーバ赤痢にたいする薬剤……
527
アモリシン…… 416
アラビアゴム…… 278
————漿…… 278
アラボン…… 166
アルカリ剤…… 229
アリザチン…… 281
アルカロージス…… 323
アルコール……30,438,442
————剤……99,172,244
————中毒…… 172
アルザセチン…… 357
アルゼノベンゾール…… 505
————ナトリウム… 505
アルゾール…… 492
アルバジール…… 517
アルバルギン…… 470
アルバルゴール…… 469
アルブモーゼ…… 372
アルミニウム化合物…… 491
アレルギー……27
アロビオーゼ…… 103
アンチツツシン…… 202
アンチフェブリン…… 184
アンチピリン…… 188
————類…… 186
————錠…… 188
アンチホルミン…… 460
アンチモン剤…… 529
アンツイトリン…… 403
アントラヒノン属…… 264
アンドロステロン…… 416
アンナカ…… 92
アンモニア…… 499
————茴香精…… 140
————擦剤…… 499
————水…… 499
アンモニウム塩…… 140
亜鉛華…… 492
——パスタ…… 493
——澱粉…… 492
——軟膏…… 492
亜鉛化合物…… 492
亜砒酸…… 357
——丸…… 357
——カリ液…… 357
亜クロール汞…… 263,508
亜麻仁油…… 482
亜酸化窒素…… 154
——鉄塩…… 350
亜硝酸塩…… 119
——アミル…… 119,121

——ソーダ…… 120,122
阿片剤…… 131,197,275
——アルカロイド塩酸塩…… 202
——チンキ…… 277
——エキス…… 276
——末…… 202,276
——吐根散…… 132
——坐剤…… 277
阿仙薬…… 489
——チンキ…… 489
安息香酸…… 145
——豚脂…… 481
——ソーダカフエイン… 92
——フェニル尿素…… 192
亜急性水銀中毒…… 508
圧縮酸素…… 129
Abfurin …… 268
Acetanilide…… 184
Acetarsolum …… 505
Acetosulfaminum …… 517
Acetum saturninum…… 490
Acetylcholin …… 211
Acetylen…… 155
Acidolpepsin …… 238
Adidolum …… 238
Acidum aceticum …… 473
——— aceticum glaciale…… 473
——— acetylsalicylicum……193
——— agaricinicum …… 221
——— arsenicosum…… 357
——— benzoicum …… 145
——— boricum …… 453
——— camphoricum…… 221
——— carbolicum…… 443
——— chromicum…… 473
——— cinnamylicum…… 145
——— citricum …… 238
——— hiaethylbarbituricum…… 167
——— gallicum …… 489
——— hydrochloricum dilutum …… 237
——— hydrocyanicum …… 137
——— lacticum …… 285,473
——— nitrico-nitrosum … 473
——— nitricum …… 473
——————fumans…… 473
——— phenyaethylbarbituricum …… 170
——— phosphoricum…… 238
——— pyrogallicum …… 446
——— salicylicum…… 451,477
——— salicylosalicylicum… 194
——— tannicum……273,340489
——— tartaricum …… 238
——— trichloraceticum……473
Acriflavinum…… 320,471
Acoinum…… 437
Aconitin…… 439
Acrinolum …… 476
Adalinum …… 161
Adeps benzoatus …… 481
——— Lanae anhydricus……481
——— suillus…… 481
Adrenaline…… 399
Adrenalinum hydrochloricum …… 96,134,207,340
Adstringentia…… 487
Adsorbents…… 279,486
Adsorbin…… 280
Aether…… 152
——— chloratus …… 154,438
——— pronarcosi…… 152
Aethylium aminobenzoicum …… 437
Aethylmorphinum hydrochloricum …… 500
Aethylium paraoxybenzoicum …… 452
Aethylmorphinum hydrochloricum …… 133
Agar-Agar …… 279
Agurin…… 312
Agaricinum…… 221
Airol …… 494
Albargin…… 470
Albargol…… 469
Albuminum tannicum …… 273
Alcaloidum Opii hydrochloricum …… 202
Alcohol absolutus…… 442
——— dilutus…… 442
Allisatin …… 281
Allium sativum…… 280
Allobiose…… 103
Aloe…… 267
Alsolum …… 492
Alumen …… 491
——————ustum …… 492
Aluminium acetico-tartaricum …… 492
——————— sulfuricum…… 492
Amidoazotoluol…… 479
Aminocordinum …… 89
Aminopyrinum …… 188
Ammonium chloratum……,141
——————— promatum…… 176
——————— sulfoichthyolicum …… 449
Amolisin…… 416
Amylene Hydrate…… 170
Amylium nitrosum …… 121
Amylum…… 278
——— Batatas …… 279

——— Oryzae…… 278,487
——— Puerariae…… 278
——— Solani…… 279,487
——— tritici…… 279,487
Analgetica …… 182
Analgesin…… 437
Anaphylaxis…… 29
Anaptol …… 425
Anästhesin …… 437
Anästhetica dolorosa …… 439
Anatoxin…… 535
Androsteron …… 416
Angina pectoris…… 117
Antagonism …… 33
Antaphrodisiacum…… 426
Anthelmintias…… 290
Antibistics …… 517
Antiformin…… 460
Antifebrin …… 184
Antimonylnatriumtartarat… 531
Antipruritica …… 475
Antipyrino-coffeinum citricum …… 188
Antipyretics…… 180
Antipyrinum …… 188
——————salicylicum…… 188
Antiseptics…… 441
Antisyphilitics …… 501
Antitussin …… 202
Antuitrin…… 403
Anusol…… 494
Apellagrin …… 392
Aperitol …… 268
Aphrodisiacum …… 426
Apomorphinum hydrochloricum …… 248
Apyrexin…… 192
Aqua aerophora Selters…… 239
—— Ammoniae…… 499
—— Amygdalarum amararum… …… 138
—— Armeniacae…… 138
—— Baelzi…… 482
—— Calcariae …… 275,455
—— Calcis…… 275
—— Cinnamomi …… 243
—— cresolica …… 445
—— Foeniculi …… 243,281
—— formalinata …… 442
—— goulardi…… 491
—— Laurocerasi …… 138
—— lysolica …… 445
—— phenolata…… 444
—— phenolata cum Acido hydrochlorico…… 444
—— phenolata pro desinfectione …… 444
—— plumbi …… 491
—— Pruni macrophyllae……138
Argentum colloidale…… 470
——— nitricum …… 469,473
——————— cum Kalio nitrico…… 474
——————— fasum… 473
——— proteinicum …… 469
Arsacetin…… 357
Arsenobenzolum…… 505
——— benzol-Natrium…… 505
Artemisiamonogyna s. maritima …… 291
Asa foetida…… 177
Aspirinum …… 193
Aothmolysin …… 134
Atebrin …… 513
——— pro injektione …… 513
Äthylen …… 155
Äthylium chloratum…… 154
Atmulatin …… 128
Atonin …… 97,282,405
Atophanum…… 196
Atropinum sulfum…… 119
——————— sulfuricum… 135,219
Atropa Bellsdonna…… 215
Aureomycin …… 524
Avertin …… 158
Axungia Porci …… 481

B

バクチ水…… 138
バグノン…… 512
バセドウ氏病…… 411
バニステリン…… 178
バリウム…… 386
バルビツール酸列の催眠剤… 166
バルビタール…… 167,249
バンカイン…… 437
麦角…… 420,422
——エキス…… 423
——中毒…… 420
——流動エキス…… 423
麦芽糖…… 373
馬鈴薯澱粉…… 278,487
ベカイン…… 224
ベタナフトール…… 447
ベット…… 396
ベナドリール…… 419
ベラフォリン…… 235
ベラドンナ…… 215
ベルツ水…… 482
ベンゾール…… 362
ベンチール・ベンゾアート … 224
ベンツェドリン…… 209
便秘…… 251
瓣膜病…… 106

鞭虫駆除剤…… 299
ビタカンファー…… 87,89
————合成 …… 89
ビギタリン…… 103
ビサチン…… 268
ビストラン…… 507
白檀油…… 319
病的状態における薬物の吸収…17
————分布…54
————作用…42
————排泄…74
——慾求…… 199
——コカイン慾求…… 431
ボンビリン…… 189
ボロヴェルチン…… 317
ボスミン…… 207
防接用フェノール…… 444
——フエノール水…… 444
——石炭酸…… 444
——石炭酸水…… 444
防腐剤…… 441
膀胱よりの吸収…… 8
芒硝…… 258
没食子酸…… 489
ブロバリン…… 165
ブフォタリン…… 110
ブロム塩…… 174
——ワレリル尿素…… 165
——アンモン…… 176
——カリ…… 175,250
——カルシウム…… 176
——ナトリウム…… 176,250
——カンフル…… 427
——樟脳…… 427
——ヂエチル・アセチル尿素 …… 166
——ラール…… 165
——中毒…… 175
——水素酸ホマトロピン… 220
——水素酸スコポラミン…… 178,250
ブロホルム…… 133
ブロード氏炭酸鉄丸…… 352
ブロカノン…… 176,250
ブロタチン…… 156,158
ブレノリン…… 317
ブルガリア乳酸菌…… 252
葡萄酒…… 99
——糖インシュリン療法…… 285
分解…… 63
物質代謝…… 363
分泌亢進剤…… 239
——抑制剤…… 142,233
Barbital …… 167
——— sol ……168
Balsamum Copaivae ……319
——— peruvianum…… 450
Bacillus Calmette-Guèrin……538
Bagnon …… 512
Bancain …… 437
Barium…… 386
Banisterine…… 178
Bayer 205 …… 529
B. C. G.…… 538
Becain …… 224
Bellafolin…… 235
Benzedrin …… 209
Benzolum puriss …… 362
Benzyl Benzoate …… 224
Betainchlorhydrat…… 238
Beta-Naphtholum …… 447
biogene Amine…… 64
Bisatinum …… 268
Bismutum oxyjodogallicum… 494
————subcarbonicum … 274
————subgallicum…274,493
————subnitricum…274,493
————subsalicylicum … 507
————tribrom-phenylicum …… 494
Blenolin …… 317
Bolus alba …… 280,487
Borax …… 453
——— glycerin …… 453
Boroglycerinum…… 452
Borovertinum……317
Borvaselin …… 453
Brocanon…… 176,250
Bromdiaethylacetylurea……166
Bromoform ……133
Bromuralum …… 165
Bromvalerylurea …… 165
Brotacin …… 158
Butylium paraoxybenzoicum…… …… 453
Bulbus Scillae …… 110,111
Bufotalin…… 110

C

Calcaria chlorata …… 460
——— hydrata …… 454
——— usta…… 454
Calcicol …… 378
Calcium bromasum …… 176
——— caseinicum …… 372
——— crbonicum …… 232,275
——— carbodicum praecipitatum …… 232,275
——— chloratum …… 378
——— diuretinicum…… 311
——— gluconicum…… 378
——— hypochlorosum…… 460
——— lacticum …… 378
——— oxydatum …… 454
Caalomels …… 263,466,508

Camphenal …… 89
Camphora depurata …… 88
——— monobromata …… 427
Campolon …… 359
Cannabinol…… 203
Cannabis indicae …… 202
Cantharidin …… 497
Cantharis…… 497
Capsula geliatnosa …… 75
Carbin…… 372
Carbolzinkliniment …… 475
Carbo medicinalis…… 280
Carboneum tetrachloratum… 296
Cardiazolum…… 89
Cardinon…… 224
Carminatives …… 281
Carnine …… 372
Caseosan…… 539
Cataplasma Caolini …… 487
Catechn …… 489
Caustics …… 471
Cera alba …… 482
——— flava …… 482
Cerium oxallicum…… 250
Charta cinapisata …… 496
Chinidinum basicum…… 116
——— purum …… 116
———aethylcarbonicum … 512
———hydrochloricum 116,186 424,512
———sulfuricum 116,186,512
———tannicum…… 512
Chinoformium …… 463
——— jodium…… 529
Chloralose …… 170
Chloralum hydratum …… 165
Chloraminum…… 460
Chloretone…… 170
Chloroform…… 153
———pro narcosi…… 154
Chloromycin …… 524
Cholagogues …… 287
Cholekinetica…… 287
Choleretica…… 287
Choleretin …… 289
Choleval…… 289
Cholevalum …… 470
Chologen…… 264
Choregol…… 289,470
Chromtrioxyd …… 473
Chrysarobinum…… 446
Cicutoxin …… 38
Cignolin …… 446
Cinnamoyl-p-oxyphenylurea…192
Cinnapyrinum …… 192
Clauden …… 343
Clyster …… 263
Coagulen…… 343
Cocainum hydrochloricum… 431
Codeinum phosphoricum…… 132
Coffeinum…… 92
——— Natrium benzoicum 92
———— Salicylicum 92
Colchicinum……196
Colchicum autumnale …… 196
Collapse…… 82
Collargol…… 470
Collodium …… 483
——— elasticum …… 483
——— jodoformiatum… 463
Conteben…… 526
Convallon …… 111
Coraminum …… 89
Cortex Chinae …… 240
——— Condurango…… 240
——— Frangulae…… 267
——— granati …… 299
Cotarninum chloratum…… 425
——— phthalicum…… 425
Cresolum …… 444
Creosotum…… 144
——— carbonicum …… 144
Cryogenin …… 192
Cumulative action …… 19
Cuprum alminatum …… 475
——— citricum…… 475
——— sulfuricum…… 248,475
Curare…… 439

D

第一鉄塩…… 350
第二鉄塩…… 350
大黄…… 241,266
大黄エキス…… 266
——チンキ…… 241,266
——シロップ…… 266
大豆油…… 482
大腸興奮剤…… 264
大風子油…… 531
——酸エチル…… 531
——油丸…… 531
代償機能亡失…… 102
唾液腺…… 410
ダイアゾン…… 532,533
ダイハイドロ・ストレプトマイシン…… 524
脱水ラノリン…… 481
男性ホルモン…… 415
弾力コロヂオン…… 483
泥膏…… 75
デーキン氏液…… 459
デーキン氏次亜塩素酸ソーダ液… …… 460
デコラン…… 289
デコリン…… 289

デルマトール…… 274,493
澱粉…… 278
——注腸…… 278
動物性脂肪類…… 481
銅化合物…… 474
銅明礬棒…… 475
銅礬…… 475
動脈内注射…… 15
土肥氏テールパスタ…… 449
ドーフル散…… 132
ドルミン…… 166
Dakin's solution …… 460
Datura alba…… 215
——— Stramonium…… 215
Decholan…… 289
Decholin…… 289
Decoctum…… 75
——— Chinae …… 240
——— condurango …… 240
DDT…… 460
Dermatol…… 274
Dermatolum …… 498
Dialum…… 168
Diäthylsulfondimethylmethan 171
Diaphoretics …… 211
Diastasum …… 246
Diason…… 532,533
Dicodid …… 202
Dichloramine T. …… 458
Digalen …… 110
Digenea …… 292
Digenea Simplex …… 292
Digenin …… 292
Digicorin …… 103
Digifolin …… 110
Digiherton…… 110
Digilanogen …… 110
Digipurat …… 110
Digitalis lanata…… 110
——— purpurea …… 103
Digitaloide…… 110
Digitalysat…… 110
Digitamin …… 110
Digitonin…… 103
Digitoxin …… 103
Dihydrooxycodeinonum hydrochloricum…… 202
Dihydro-streptomycin …… 524
Dijod-tyrosin…… 414
Dilamdid…… 202
Dinitro-α-naphthol…… 180
Dinitrophenol…… 180
Dionin…… 130,500
Diplosal …… 194
Disulfaminum…… 417
Diucalcin…… 311
Diuretino-calcium Sulfocyanatum …… 122
Diuretinum…… 311
Dosis letalis…… 20
—— maxima…… 20
—— medicamentosa…… 19
Drastics …… 253
Dulcin…… 374
Duotal…… 145

E

エヴィバン…… 168
————ナトリウム… 157,158
エクゴニン…… 215
エメチン…… 527
エチレン…… 155
エナルモン…… 416
エストロン…… 416
エスモヂル…… 210,211
エゼリン…… 212
エフェトニン…… 135
エフェドリン…… 135,208
エチル・アルコール…… 172
エチル・ウレタン…… 171
エチル炭酸キニーネ…… 512
——ヒドロクプレイン…… 526
エチルモルヒネ…… 132,499
エバール…… 268
エバニン…… 137
エピネフリン…… 207
エラルソン…… 358
エリオザン…… 539
エリチーラン…… 414
エリトロル・テトラニトラート… …… 120
エルゴメトリン…… 421
エルゴタミン…… 421
エルゴトキシン…… 421
エルゴバジン…… 421
エルスチン…… 539
エルドフォルム…… 273
エルボン…… 192
エーテル…… 151,152
——精…… 146
——性油…… 143,449
——性吉草チンキ…… 177
——麻酔の術式…… 152
——硫酸合成…… 61
塩酸…… 235
——アポモルヒネ…… 248
——エメチン…… 528
——エチルモルヒネ…… 133,500
——エフェドリン…… 135,208
——エピレナミン液…… 96,134, 207,340
——オプトヒン…… 527
——キニーネ…… 116,186,512
——キニーネ錠…… 512
——キニーネ丸…… 512

——コカイン…… 249.431
——コカイン錠…… 432
——コタルニン…… 425
——シノメニン…… 194
——ヂヒドロオキシ・コデイノン …… 202
——パパベリン…… 224,289,250
——パラシノメニン…… 194
——ハルミン…… 179
——ヒドラスチニン…… 425
——ピロカルピン…… 212
——プロカイン…… 437
——ベタイン…… 238
——モルヒネ…… 129,289
——モルヒネ錠…… 202
——リモナーデ…… 238
——レミジン…… 527
——ロベリン…… 128
塩化アドレナリン……96,134 207,340
——アンモン…… 141
——亜鉛…… 474
——カルシウム…… 378
————液…… 378
——第二水銀…… 465
——(第二)鉄…… 340
——第二鉄液…… 340
塩素酸カリ…… 457,458
——加石炭酸水…… 444
塩剝…… 458
塩基性オプトヒン…… 527
——キニヂン…… 116
塩類下剤…… 255
——作用…… 41
鉛水…… 491
鉛醋…… 490
鉛糖…… 490
——水…… 490
液状石炭酸…… 444
液体ヂフテリア血清…… 536
——破傷風血清…… 537
Ecgonine…… 215
Elaeosaccharum …… 75
Elbon… …… 192
Eldoform…… 273
Electuarium ……75
Elithyram …… 414
Elarson …… 358
Emmeagogues…… 265
Emetics……246
Emetinum hydrochloricum… 528
Emplastrum…… 75
——— Hydroargyri ……508
——— Lithargyri…… 491
——— Plumbi …… 491
——— snponatum…… 479
——— saponatum salicylatum …… 452
Emulsio…… 75
——— Olei Jecaris…… 374
Enarmon…… 416
Ephedrinum hydrochloricum…… …… 135,208
Ephetonin …… 135
Epinephrin…… 207
Equijodin……385
Ergcbasine…… 421
Ergotamine…… 421
Ergotism…… 420
Ergotoxine…… 421
Ergometrine …… 421
Eryosan …… 539
Erythroltetranitrate…… 120
Esmodil …… 211
Erstin…… 539
Eserinum salicylicum …… 213
——— sulfuricum …… 213
Ethyl alcohol…… 172
Ethylurethane …… 171
Eucodal …… 202
Euchininum…… 512
Eumydrin …… 218
Eunarcon…… 158
Euphyllinum …… 312
Eustaptin…… 425
Euvestin…… 419
Eval…… 268
Evipanum……168
Evipan Natrium……158
Expectrants…… 135
Extractum Cannabis indical …203
——— Cubebarum……319
——— Filicis…… 297
——— Chinae fluidum……240
——— Cascara Sagradae fluidum …… 266
——— Condurango fluidum… …… 240
——— coptidis …… 243
——— Gentianae…… 242
——— hydrastis fluidum… 425
——— Opii……276
——— Picrasmae…… 243
——— Rhamni Purshianae fluidum…… 266
——— Rhei …… 266
——— Scopoliae·· 220,234,270
——— Secalis cornuti aquosum…… 423
————fluidum…423
——— Strychni……242
——— Uvae Ursi fluidum 315

F

ファゴール…… 145

ファヂン…… 531
ファトシン…… 137
ファノドルム…… 168
フィゾスチグミン…… 212
フィルマロン油…… 297
フェスタール…… 246
フェナセチン…… 185
————類…… 184
フェナビリヂン…… 320
フェナントレン…… 197
フェノール…… 442,443,444
————水…… 444
フェノルフタレイン…… 267
フェノバリン…… 268
フェノバルビタール…… 168,169
フェニル・エチル・バルビツール酸…… 170
————ヂメチルピラゾォロン…… 188
————セミカルバシッド…… 192
————ヒノリン・カルボン酸…… 195
ホーレル水…… 357
フタール酸コタルニン…… 425
フラングラ皮…… 267
フルオレスチン…… 471
フルオレスセイン…… 471
複方甘草散…… 267
——キナチンキ…… 241
——大黄丸…… 266
——大黄散…… 266
——チームス・シロップ…… 133
——プラスモヒン…… 514
——ヨード液…… 462
——ヨードグリセリン…… 462
副腎…… 399
副甲状腺…… 414
副交感神経興奮剤…… 209
————麻痺剤…… 214
河豚毒…… 439
風土順応…… 334
腐蝕剤…… 471
浮游剤…… 75
沸騰散…… 238,239
——クエン酸マグネシア…… 259
Fagol …… 145
Fatocin…… 137
Fel tauri siccum …… 289
Ferrum carbonicum saccharatum …… 352
—— reductum…… 352
Festal …… 246
Filmaron-oil …… 297
Flos chamomillae …… 486
Flores Chamomillae…… 282
—— Cinae …… 291
—— Koso …… 298
—— sulfuris…… 478
—— zinci…… 492
Fluorescin …… 471
Fructus Catalpae …… 313
Folia Sennae…… 266
Folic acid…… 347,398
Folium Digitalis …… 109
—— Trifolii fibrini…… 242
—— Uvae Ursi…… 315
—— Vi is-Idaeae…… 316
Formol…… 442
Formaldehydum solu um…… 442
Formalinum …… 442
Formol Toxide…… 535
Fructus Colocynthidis…… 263
—— Cubebae …… 319
—— Foeniculi…… 281
Fuadin…… 531

G

ガラクトサン…… 372
ギタリン…… 103
ギトキシン…… 103
ギナンドール…… 418
ギネルゲン…… 423
ギプロン…… 507
グアヤコール…… 448
————スルホン酸カリ…… 145
グッタペルカ液…… 446
グラヴィトール…… 425
グリセリン…… 269,482
————カリ液…… 483
————坐剤…… 269
————軟膏…… 483
グルコン酸石灰…… 378
グルクロン酸合成…… 60
グレラン…… 189
ゲリソン…… 516
ゲルバミン…… 273
ゲルマニン…… 529
ゲンチアナ・エキス…… 242
————根…… 242
————チンキ…… 242
ゲンノショウコ…… 272
ゴノザン…… 319
含水炭素…… 368
——製剤…… 373
含糖ペプシン…… 246
——炭酸鉄…… 352
————第一鉄…… 352
丸薬…… 74
合成…… 60
銀化合物…… 467
原因療法…… 1
牛脂…… 481
蟯虫駆除剤…… 299
解熱剤…… 179

胡麻油…… 482
五倍子…… 489
————チンキ…… 489
Galactosan …… 372
Galla …… 489
Gelatina alba…… 343
Gelbamin…… 273
Germanin …… 529
Giflon…… 507
Gitalin…… 103
Gitoxin…… 103
Glandula Thyreoidea Siccata…… 314,410
Glycerinum…… 269,482
———— boricum…… 453
———— Jodi compsitum…… 462
Gonosan …… 319
Gossypium Acidi borici…… 453
Gravitol …… 426
Gossypium jodoformiotum…… 463
Gossypium salicylatum …… 452
Guajacolum…… 448
———— carbonicum …… 145
Gummi arabicum …… 278
Gutti …… 264
Gynandol…… 418
Gynergen…… 423

H

ハシリドコロ…… 215
ハルマリン…… 178
ハルミン…… 178
ハロゲン…… 458
ハロミン…… 458,460
肺水腫…… 124
肺よりの排泄…… 71
————吸収…… 10
排出性腎臓炎…… 68
白降汞…… 466
——軟膏…… 466
白陶土…… 280,487
——バツブ…… 487
白蠟…… 482
白色プロントジル…… 514,516
——ワゼリン…… 482
白血球の薬理…… 359
発育ホルモン…… 402
発煙硝酸…… 473
発炎剤…… 494
発汗剤…… 211
発疱剤…… 484
薄荷精…… 476
——脳…… 476
破傷風予防液…… 537
——抗毒素…… 536
瘢痕軟解剤…… 480
半夏…… 250
ハヅ油…… 262
巴豆油…… 262
ヒオスチン悪液質…… 178
ヒスチヂン…… 64
ヒドラスチス剤…… 424
————流動エキス…… 425
ヒドノール…… 531
ヒドロリコリン…… 528
ヒポカイン…… 437
ヒポフィジン…… 97
————強…… 405
ヒポホリン…… 403
ヒポホルム…… 437
蓖麻子…… 260
ヒマシ油…… 260,262,269,482
ヒルヂン…… 348
ヒロポン…… 209
ヒヨス…… 215
ヒヨスチアミン…… 215
ヒヨレゴール…… 289,470
砒素…… 31
——剤…… 353
泌尿器の薬理…… 300
被覆剤…… 278,480
皮下注射…… 12
皮膚及粘膜よりの排出…… 71
——よりの吸収…… 9
非特異性刺戟療法…… 538
漂白粉…… 460
ヘキサール…… 317
ヘキサ・メチレン・テトラミン…… 289,316,317
ヘサチラミン…… 317
ヘクタリン…… 471
ヘスペリン…… 394
ヘトール…… 145
ヘノボジ油…… 294
ヘモグロビン…… 333
ヘバリン…… 348
ヘパン…… 359
ヘブラ軟膏…… 491
ヘルミトール…… 317
氷醋酸…… 473
変調療法…… 538
扁桃油…… 482
ホスピタン…… 209
ホマコイン…… 437
ホマトロピン…… 217
ホフマン液…… 146
ホミカエキス…… 242
————チンキ…… 242
ホルマリン…… 442
————水…… 442
————石鹸液…… 442
ホルムアルデヒト…… 441
————液…… 442
ホルモール・トキソイド…… 535
ホルモン…… 399

芳香散…… 243
——性健胃剤…… 243
——チンキ…… 243
抱水アミレン…… 170
——クロラール…… 164,165,250
——テルピン…… 142
硼酸…… 452,453
——グリセリン…… 453
——軟膏…… 453
10%硼酸ワゼリン…… 453
——亜鉛華軟膏…… 453
——ガーゼ…… 453
——綿…… 453
——ソーダ…… 453
硼砂…… 452,453
——グリセリン…… 453
飽和剤…… 25
補血剤…… 344
補充拮抗作用…… 38
——療法…… 2
発作性心搏急速症…… 113
本態的血圧亢進症…… 118
Hg-化合物…… 111
Habituation …… 29
Halomin …… 460
Harmaline …… 178
Harminum hydrochloricum… 179
Hectalin …… 471
Helmitolum…… 317
Hepan…… 359
Heparin …… 348
Hepra sulfuris …… 478
Herba Geranii …… 272
——— Swertiae …… 241
Hesaciramin …… 317
Hesperin…… 394
Hetol …… 145
Hexalum…… 317
Hexamethylentetramin…… 289
Hexamethylentetraminum … 317
Hexoestrol…… 419
Hirudin …… 348
Histidine…… 64
Homacoin …… 437
Homatropinum hydrobromicum …… 220
Hormones …… 399
Hydnol …… 531
Hydrargycum bichloratnn… 465
Hydrargyrum bichloratum pro desinfectione…… 466
———chloratum 263,466,508
———vapore paratum 466,508
———oxydatum flavum… 466
———oxycyanatum…… 466
———praecipitatum album 466
———salicylicum…… 503
Hydrastininum hydrochloricum …… 425
Hydrocodeinum Phosphoricum… …… 202
Hyoscinum hydrobromicum…178
Hyoscyamine…… 215
Hyoscyamusniger…… 215
Hypnotics …… 161
Hypocain…… 437
Hypoform …… 437
Hypophorin …… 403
Hypophysin…… 97
——— "Stark" …… 405

I

イクイヨヂン…… 385
イグロシン…… 313
イコラール…… 128
イサツェン…… 268
イスジリン…… 410
イスチチン…… 267
イスラビン…… 320,471
イソヒノリン…… 197
イソミン…… 166
イチゴ・シロップ…… 374
イヒチオール…… 448,449
————軟膏…… 449
————スルホン酸アンモン …… 449
————軟膏… 449
イペトン…… 285
インシュリン…… 410
インゼリン…… 410
硫黄…… 268,477
——華…… 478
——乳…… 478
印度大麻草…… 202
——エキス…… 203
——チンキ…… 203
イヌサフラン…… 196
イマミコール…… 509
一酸化炭素…… 335
胃よりの吸収…… 4
胃機能の薬理…… 224
硫黄合成…… 63
飯匙蛇毒血清…… 537
引赤薬…… 484
Ichthyolum…… 449
Icoral …… 128
Iqrosin…… 313
Imamicol…… 509
Infusum…… 75
Inselin…… 410
Isacen …… 268
Istizin …… 267
Isochinolin …… 197
Isravin…… 320,471
Iveton…… 285

J

ヂアール…… 168
ヂアスターゼ…… 245,246
ヂウカルチン…… 122,311
ヂウレチン…… 311
————カルシウム…… 311
鞣酸…… 488
——剤…… 272
十二指腸虫駆除剤…… 292
ヂエチル・バルビツール酸… 167
————ソーダ… 168
————マロニル尿素…… 167
ヂオニン…… 132,133,499,500
ヂガレン…… 110
ヂゲニン…… 292
ヂコヂツト…… 202
ヂギタミン…… 110
ヂギタリザート…… 110
ヂギタリス…… 103,114
————チンキ…… 109
————製剤…… 97
————葉…… 109
ヂギタロイド…… 110
ヂギトキシン…… 103
ヂギトニン…… 103
ヂギフォリン…… 110
ヂギプラート…… 110
ヂギヘルトン…… 110
ヂギラノゲン…… 110
ヂクロラミン T.…… 458
ヂスルファミン…… 517
ヂセプタール…… 517
ヂフテリア抗毒素…… 535
————毒素液…… 536
————予防液…… 536
ヂプロザール…… 194
ヂ・ニトロ・α-ナフトール…… 180
ヂヨード・チロジン…… 411,414
ヂラムヂツト…… 202
ジロリン…… 145
ジンテツクス…… 397
ジンバトール…… 94,96
蒸気製甘汞…… 466,508
静脈内注射…… 14
重金属…… 464
——塩…… 473
重合…… 60
重曹…… 232
重酒石酸カリ…… 258
重炭酸ソーダ…… 230,232
次亜塩素酸ソーダ液…… 460
次醋酸鉛液…… 490
次サリチル酸蒼鉛…… 507
次硝酸蒼鉛…… 474,493
————錠…… 274
次炭酸蒼鉛…… 274
次没食子酸蒼鉛…… 274,493
次没食子酸ヨード蒼鉛…… 494
自発性低血糖症…… 409
自律神経系…… 203
持続睡眠剤…… 162
上皮形成促進剤…… 479
——小体…… 414
錠剤…… 74
女性ホルモン…… 416
麝香…… 146
滋養剤…… 371
循環器の薬理…… 79
——剤…… 82
——ホルモン…… 410
純アルコール…… 442
純キニヂン…… 116
純スカーレツト…… 480
人工カルルス塩…… 232,258,290
腎臓よりの排泄…… 65
弱発疱膏…… 498
蛇毒血清…… 537
Jodcalciumdiuretin …… 385
Jodipin…… 386
Jod-diucalcin …… 385
Jodjodkaligycerin …… 462
Jodoformium…… 463
Jodtetragnost…… 386
Jodtinktur …… 462
Jodum…… 462
Jothion …… 462
Juvela…… 396

K

カカオ脂…… 482
カコヂル酸ソーダ…… 357
カシア木…… 243
カシアエキス…… 243
カシアチンキ…… 243
カストル油…… 262
カスカラサグラダ流動エキス…… …… 266
カゼオザン…… 539
カゼインソーダ…… 372
————石灰…… 372
カタリザチン…… 268
カチーフ…… 397
カフェイン…… 89,92,126
カプセル…… 75
カマラ…… 298
カミツレ花…… 282,486
カヤブテ油…… 280
カリウム塩…… 328
カリ塩…… 312
——石鹸…… 479
カリクライン…… 410
カリザニン…… 250
カルシウム…… 375
————塩…… 342

————剤… 250,274,375,376
カルチコール…… 250,378
カルヂノン…… 224
カルヂアゾール…… 87,89,126
カルニイン…… 372
カルバミン酸ヒヨリン・エステル …… 210
カルビン…… 372
カルモチン…… 165
カンフェナール…… 87,89
カンフル…… 85,88,126,499
————酸…… 221
————チンキ…… 499
————精…… 499
————軟膏…… 499
————オレフ油…… 89
カンタリス…… 497
————チンキ…… 498
カンタリヂン…… 497
カンナビノール…… 203
カンボロン…… 359
カワカワ…… 319
蛔虫駆除剤…… 291
灰白軟膏…… 508
海人草…… 292
海葱…… 111
——類…… 110
過クロル鉄液…… 340
過マンガン酸カリ…… 456,457
過酸化水素…… 340,455
————水…… 340,456
————マグネシア…… 230,232
覚醒剤…… 146
化学療法…… 47
————剤…… 514
——的構造と薬理作用…… 39
角質溶解剤…… 477
灌腸…… 268
灌注麻酔法…… 152
緩下剤…… 252
還元…… 58
——鉄…… 352
甘草…… 374
——羔…… 374
甘汞…… 262,263,466,508
——錠…… 263
甘味剤…… 374
甘藷澱粉…… 279
冠状動脈閉塞…… 117
寒天…… 279
感作…… 35
寒冷麻酔…… 438
乾燥甲状腺…… 314,414
乾性牛膽…… 289
肝油…… 373
——乳剤…… 374
肝細胞の薬理…… 282
肝臓の薬理…… 282
——製剤…… 358
芥子…… 496
——精…… 497
——泥…… 496
——浴…… 496
——繃絡…… 496
——紙…… 496
苛性アルカリ…… 471
——カリ…… 472
——ナトロン…… 472
苛味性健胃剤…… 243
仮性拮抗…… 33
——協力…… 33
煆製マグネシア…… 230,232,259
——石灰…… 454
加香ヒマシ油…… 262
滑石…… 487
果糖…… 285
間接的止血剤…… 344
壊血病…… 392
キオシン…… 89
キササゲ実…… 313
キセロホルム…… 494
キチガヒナスビ…… 215
キナ皮…… 240
——煎…… 240
——チンキ…… 241
——流動エキス…… 240
キニーネ…… 115,424,509
————類…… 185
キニヂン…… 115
キノフェン…… 196
キノホルム…… 463
————ガーゼ…… 463
キノヨゲン…… 529
期外収縮…… 112
稀塩酸…… 237
稀アルコール…… 442
稀ヨードチンキ…… 462
————精…… 462
稀次醋酸鉛液…… 491
揮発芥子油…… 497
気管枝痙攣除去剤…… 133
規鉄丸…… 353
基礎麻酔剤…… 155
筋肉内注射…… 14
吉草根…… 176,177
——チンキ…… 177
極量…… 20
虚脱…… 82
祛痰剤…… 135
局方薬…… 76
局所作用…… 17

——麻酔剤…… 428
——止血剤…… 339
——的消炎剤…… 486
矯味剤…… 278,374
胸腺…… 415
脚ブロック…… 113
狭心症…… 117,120
杏仁水…… 138
杏仁油…… 482
強亜鉛華軟膏…… 492
強オキシドール…… 456
強ネオアルゼノベンゾール… 505
強心剤…… 102
強壮剤…… 93
強過酸化水素水…… 456
強ヨード化油…… 386,462
強発疱膏…… 498
強滅菌療法…… 48
吸虫類にたいする薬剤…… 529
吸着剤…… 279 486
吸入…… 10
——剤…… 141
——麻酔剤…… 150
吸収防止剤…… 255
——後の作用…… 17
急性水銀中毒…… 507
——砒素中毒…… 355
——モルヒネ中毒…… 200
——循環機能不全に用いられる薬物…… 82
機能的療法…… 1
器官の pH 値…… 321
協力…… 33
拮抗…… 33,36
クエン酸…… 238
————カフエイン・アンチピリン…… 188
————銅…… 475
————リモナーデ…… 238
クベバエキス…… 319
——実…… 319
クラウデン…… 343
クラレ…… 439
クリオゲニン…… 192
クリザロビン…… 446
クレオソタール…… 144
クレオソート…… 144,447
————剤…… 143
————丸…… 281
クレゾール…… 444
————石鹸液…… 444
————水…… 445
クレチン病…… 411
クロラミン…… 458,460
————溶液…… 459
クロラローゼ…… 170
クロル…… 458
————石灰…… 459,460
————石灰乳…… 460
————エチル…… 154,438
————ナトリウム…… 341
クロレトン…… 170
クロロホルム… 152,153,250,438
————精…… 438
————油…… 438
————擦剤…… 438
————麻酔の術式…… 153
クロロマイセチン…… 524
駆梅薬…… 501
駆虫剤…… 290
駆風剤…… 281
苦土大黄散…… 259
苦扁桃水…… 138
苦味剤…… 239
——チンキ…… 242
苦木…… 243
——エキス…… 243
——チンキ…… 243
華澄茄…… 319
葛澱粉…… 278
佝僂病…… 395
ケシ…… 197
ケレン…… 154,438
健胃チンキ…… 241
——散…… 241
——錠…… 242
痙攣性便秘…… 252
桂皮酸…… 145
——ナトリウム…… 145
——油…… 243
——チンキ…… 243
——水…… 243
頸動脈洞反射…… 79
牽牛子脂…… 264
血管拡大剤…… 116
——運動神経中枢の麻痺…… 80
血色素…… 333
血液型…… 347
——及造血臓器の薬理…… 321
血清…… 344
——病…… 535
血炭…… 280
結膜嚢よりの吸収…… 9
罌粟(ケシ)…… 197
コアグレン…… 341,343
コカイン…… 428
————の代用薬…… 432
コケモモ葉…… 316
コソ花…… 298
コデイン…… 131
コパイババルサム…… 318,319

コーヒー…… 89
コラミン…… 88,89,126
コラルゴール…… 469,470
コルニヂン…… 89
コルヒチン…… 196
コレステリン…… 370
コレレチン…… 289
コロイド…… 329
————銀…… 469
コローゲン…… 264
コロシント実…… 263
コロヂオン…… 483
コロンボ根…… 243,279
コンゴー赤…… 342
コンヅランゴ皮…… 240
————皮煎…… 240
————流動エキス…… 240
————酒…… 240
コンバロン…… 111
皓礬…… 492
枯礬…… 492
甲状腺…… 410
——剤…… 314
高張液…… 99
高張葡萄糖液… 101,102,112,342
小麦澱粉…… 279,487
米澱粉…… 278,487
高空病…… 333
骨軟化症…… 395
鉱物性脂肪類…… 482
交感神経興奮剤…… 205
興奮(発揚)期…… 147
呼吸器の薬理…… 123
——障碍…… 124
——不適性ガス…… 11
——中枢興奮剤…… 126
——鎮静剤…… 128
向甲状腺ホルモン…… 403
向性腺性ホルモン…… 402
抗毒素…… 534
抗生剤…… 514,517
抗ヒスタミン剤…… 419
硬膏…… 75
糊膏…… 75
膠質…… 329
膠嚢…… 75
固形パラフィン…… 482
Kallikrein …… 410
Kali causticum …… 472
Kalium-Aluminium sulfat…… 491
—— bitartaricum…… 258
—— bromatum…… 175
—— chloricum …… 458
—— hydroxyd …… 472
—— jodatum…… 141,385
—— permanganicum …… 457
—— sulfoguajacolicum……145
—— sulfuratum …… 478
—— tartaricum…… 258
Kamala…… 298
Kaolin…… 280
Katharisatin …… 268
Kativ …… 397
Kelen …… 154,438
Kongorot…… 342
Kreosotal …… 144

L

Lacarnol …… 224
Lactoflavin…… 390
Lac Calcariae…… 454
—— sulfuris …… 478
Lactopheninum …… 185
Lactylphenetidin …… 185
Lanolin …… 481
Larosan …… 372
Lapis …… 469
—— divinus …… 475
—— mitigatus …… 474
—— ophthalmicus …… 475
Lävulose…… 285
Laxantives …… 252
Laxatol…… 268
Lecithin …… 285
Lentin…… 210
Linimentum…… 75
———— ammoniatum … 499
———— calcariae …… 455
———— Chloroformii… 438
———— saponato-camphoratum …… 499
———— zinci phenolat… 475
Lignum Picrasmae…… 243
Limonada citrica …… 238
———— hydrochlorica…… 238
Lithium …… 386
Liquor Aluminil acetici……491
—— Calcii chlorati ……378
—— arsenicalis Fowleri… 357
—— Cresoli saponatus……444
—— Epirenamini hydrochlorici …… 96,134,207,340
—— Ferri sesquichlorati… 340
—— Formaldehydi saponatus …… 442
—— Gelatinae stelirisatus 344
—— Guttaperchae……446
—— Hoffmanni……146
—— Hydrogenii peroxydati … …… …340,456
————fortior… 456
—— Jodi compositus …… 462
—— Kalii arsenicosi …… 357
———— caustici……313,472
———— glycerinatus……483
—— Lockei …… 101
—— Lugoli …… 385,462
—— Natrii chlorati physiologicus …… 101
—— Plumbi acetici …… 490
———— subacetici……490
————dilutus…491
—— Sodii hypochloriti … 460
—— Ringeri……13,101
Lobelinum hydrochloricum… 128
Local Anesthetics…… 428
Luestin…… 508
Luminalum…… 169
Luminalnatrium…… 170
Lysoform…… 442
Lysolum …… 444

M

マイアネシン…… 440
マーキュロクロム…… 466
マクニン…… 292
マクリ…… 292
マグネシア…… 230,232,239
マグネシウム塩…… 329,440
マーシオレート…… 466
マーゾニン…… 466
マネトール…… 343
マハセゾール…… 506
マファルセン…… 506
マラリア剤…… 509
マルツエキス…… 373
マルファニール…… 517
マルファニン…… 517
マレチン…… 192
マンナ…… 260
マンデル氏ヨードグリセリン…… …… 462
マンダラケ…… 215
麻酔の学説…… 51
——の後作用…… 149
——補助剤…… 158
——ガス…… 154
——剤…… 147,150
——用エーテル…… 152
——用クロロホルム…… 154
慢性砒素中毒…… 355
——モルヒネ中毒…… 199
——心臓機能不全…… 105
————衰弱に用いられる薬物… …… 102
末梢性血管麻痺…… 81
ミニグリン…… 410
————リタード…… 410
ミオカノン…… 224
ミラノイエン…… 507
ミレバール…… 268
ミチガール…… 478
ミルラ…… 450
——チンキ…… 450
ミオアーセミン…… 505
ミオアルゼノベンゾール…… 505
ミオエーラミゾール…… 505
ミオサルヴァルサン…… 505
ミグレニン…… 188
————錠…… 188
ミルトール…… 143
ミブヨモギ…… 291
蜜蠟…… 482
明礬…… 491
ムスカリン…… 214
ムタノール…… 507
ムルチン…… 539
無機塩…… 326
——質の薬理…… 374
無水亜砒酸…… 357
——クロム酸…… 472,473
メズラン…… 343
メゾタン…… 194
メタノール…… 173
メタンアミノ・アンチピリン・メタンスルホン酸ソーダ…… 189
メヂナール…… 168
メチル・アルコール…… 173
——アルヂン酸ソーダ…… 357
——スルホナール…… 171
——テストステロン…… 416
——モルヒネ…… 131
メチレン・クレオソート…… 145
メチローン…… 189
メリジン…… 528
メルブリン…… 189
メントール…… 476
綿馬根…… 296
——エキス…… 297
酩酊(迷朦)期…… 147
滅菌ゼラチン液…… 344
モルヒネ……30,198
————類…… 129
毛細管麻痺…… 81,97
網内細胞…… 53
網状織内被細胞…… 52
木タール…… 448
————軟膏…… 448
木蠟軟膏…… 482
Macnin …… 292
Magnesia usta …… 232,259
Magnesium carbonicum……232, …… 259
———— citricum effevescens …… 259
———— peroxydatum … 232
———— sulfuricum… 258,440
Mandl-Jodglyzerin……462
Manetol …… 343
Manna…… 260

Mapharsen…… 506
Maretin …… 192
Marfanil…… 517
Melubrinum …… 189
Medinal …… 168
Medulan…… 343
Melysin …… 528
Mentholum…… 476
Merkurichlorid…… 465
Mercurochlorid…… 263
Mercurochromum…… 466
Mertiolate …… 466
Merzonin …… 466
Mesotanum…… 194
Methanol…… 173
Methanolum pro desinfection …… 442
Methylalcohol …… 173
Methylenkreosot …… 145
Methylium salcylicum…… 194
Methylisopropylphenol …… 293
Methylsulfonalum…… 171
Methoxyhydrastinin…… 425
Migräninum …… 188
Milaneuen…… 507
Mileval …… 268
Miniglin …… 410
——— Retard …… 410
Miotics…… 212
Mitigal…… 478
Mixtura agitanda …… 75
Molyodol…… 386
Morphinum hydrochloricum…… 129,202
Morphinism …… 199
Moschus …… 146
Mothersills Seasick remedy 248
Mucilagines…… 278
Mucilago Gummi arbici ……278
——— Salep…… 278
Multin…… 539
Muscarin…… 214
Mutanol …… 507
Myo-Arsenobenzolum …… 505
Myocanon …… 224
Myosalvarsan…… 505
Myrtol…… 143

N

ナグラボン…… 359
ナフタリン…… 293,446,447
ナフトール…… 446,447
ナルカイン…… 436,437
ナルチレン…… 155
ナルコフィン…… 202
ナルコポン・アトロピン注射液…… 289
———パパベリン注射液 289
ナルビン…… 359
鉛塩…… 490
軟膏…… 75
大蒜…… 280
ネオトロピン…… 320
——トロンブリン…… 343
——トレポール…… 507
——サルヴァルサン…… 505
——アルゼノベンゾール…… 505
——アルサミノール…… 505
——エーラミゾール…… 505
——ネオーアーセミン…… 505
——サビオール…… 505
——イマミコール…… 509
——ビストラン…… 507
——ゲブルチン……97,405
——チストール…… 317
——ゲリゾン…… 517
——カイン…… 437
——テラポール…… 517
——スチポサン…… 531
ネスポサン…… 531
粘漿剤…… 278
粘液水腫…… 411
粘膜麻酔剤…… 431
ニコチン…… 221
———酸…… 391.392
———酸アミド…… 391
ニソニク…… 280
ニトログリセリン…… 120,121
———体…… 180
肉エキス…… 372
肉汁…… 372
尿素…… 313,314
尿消毒剤…… 314
乳剤…… 75
乳酸…… 285,472,473
——石灰…… 378
乳腺よりの排泄…… 73
乳糖…… 374
肉桂油…… 482
2 価の鉄塩…… 350
ノヴァトファン…… 195
ノバボン…… 189
ノイホルム…… 432,437
ノクタール…… 168
ノクテナール…… 168
ノヴァルギン…… 189
ノヴァスロール…… 508
ノヴォカイン…… 433,437
ノボロホルム…… 437
ノボプロチン…… 539
濃度差作用毒…… 54
腦下垂体…… 401
———後葉製剤…… 423
———製剤…… 97
ヌトローゼ…… 372

ヌペルカイン…… 436,437
糠油…… 482
ネマトール…… 295
Nagravon …… 359
Naphthalin…… 293
Naphthalinum …… 447
Narbin…… 359
Narcain …… 437
Narcopon …… 202
Narcotics …… 147
Narcylen…… 155
Narkophinum…… 202
Natrium acetylarsanilicum… 357
——— aminopyrin methan-S-ulfonicum …… 189
——— bicarbonicum …… 232
——— boracicum…… 453
——— bromatum…… 176
——— cacodylicum…… 357
——— causticum…… 472
——— chloratum…… 341
——— cinnamylicum …… 145
——— diaethylbarbituricum168
——— hypochlorasum solutum …… 460
——— jodatum…… 385
——— methylamino antipyrin methan sulfonicum …… 189
——— methylarsinicum… 357
——— nitrosum …… 122
——— phenylaethylbarbituricum …… 170
——— phosphoricum …… 258
——— salicylicum…… 192
——— santonicum …… 292
——— sulfuricum…… 258
Nematol…… 295
Neo-Arsenobenzolum …… 505
—— Arsenobenzolum fortius 505
—— cain…… 437
—— cystol…… 317
—— Geburtin…… 97,405
—— Imamicol…… 509
—— Neo-Arsemin …… 505
—— salvarsan …… 505
—— stibosan…… 531
—— tropin …… 320
—— Thrombrin …… 343
—— Trepol …… 507
Nesbosan…… 531
Neuformium …… 437
Nupercain …… 437
Nutrose …… 372
Nitroglycerinum …… 121
Nitrogeninum oxydulatum… 154
Noctal…… 168
Noctenal…… 168
Novalginum …… 189
Novasurolum…… 508
Novatophan …… 195
Novocain…… 437
Novoloform …… 437
Novoprotin …… 539

O

オイコダール…… 202
オイスタプチン…… 425
オイナルコン…… 158
オイヒニン…… 512
オイフィリン…… 312
オイペスチン…… 419
オイミドリン…… 218
オオホルミンルテウム…… 419
オーレオマイシン…… 524
オキシシアン水銀…… 466
———錠…… 466
オキシフル…… 456
オキシドール…… 456
オサミノール…… 505
オスヴァルサン…… 505
オゾン…… 455
オバストロン…… 419
——ホルモン…… 418
——ホルモン・ペンツオアート418
オビソート…… 211
オプタルソン…… 358
ンオプトヒン…… 527
オポスタチン…… 343
オポレニン…… 207
オムナジン…… 539
オムニン…… 539
オムニカイン…… 437
オラスヂン…… 404
オラルチード…… 505
オルトホルム…… 432,437
オルト・ヂ・ニトロ・フェノール…… 180
オレフ油…… 269,482
黄降汞…… 464,466
——軟膏…… 466
黄視症…… 291
黄色酸化汞…… 464,466
黄色ワゼリン…… 482
黄体形成ホルモン…… 403
——ホルモン剤…… 419
黄連…… 243
——エキス…… 243
黄蠟…… 482
温刺…… 180
遠志…… 137
——シロップ…… 137
嘔心性祛痰剤…… 138
Oestron …… 416
Official Dyrugs …… 76
Oleum Anisi …… 243,280

Oleum Arachidis …… 482
—— Armeniacae …… 482
—— Amygdali …… 482
—— Cacao …… 482
—— Cajeputi …… 280
—— Camelliae …… 482
—— Camphoratum …… 89
—— Caryophylli …… 243,451
—— Castoris …… 262
—— Chenopodii …… 295
—— Chloroformii …… 438
—— Cinnamomi …… 243
—— Crotonis …… 262
—— Eucalypti …… 143
—— Hydnocarpi …… 531
—— Jecoris …… 373
—— jodatum …… 386,462
—————— fortius …… 462
—— Juniperi …… 280
—— Lini …… 482
—— menthae …… 476
—— Nikkei …… 482
—— Olivae …… 269,482
—— Oryzae …… 482
—— Ricini …… 262,269,482
—— Ricini aromatisatum …… 262
—— Santali …… 319
—— Sesami …… 482
—— Sinapis aethereum …… 497
—— Sojae …… 482
—— Terebinthinae …… 497
—————— rectificatum …… 142
—— zinci …… 493
Omnadin …… 539
Omnin …… 539
Omnicain …… 437
Omphalia lapidescens …… 299
Oophormin-Luteum …… 419
Opium pulveratum …… 202,276
Opostatin …… 343
Optarson …… 358
Optochin hydrochlor …… 527
Optochinum basicum …… 527
Orasthin …… 404
Orthoform …… 437
Ovahormon …… 418
Ovahormonn-Benzoat …… 418
Ovastron …… 419
Oxydolum …… 456
—————— concentratum …… 456
Oxyfull …… 456
Oxygenium compressum …… 129
Oxytocin …… 404
Ozone …… 455

P

パーゲンステツヘル氏軟膏 …… 466
パスタ剤 …… 75
パヅチン …… 410
パノス …… 260
パパイン …… 246
パパベリン …… 223
パパヨチン …… 246
パビナール …… 202
パラアミノサリチル酸 …… 525
パラアルデヒード …… 171
パラオキシ安息香酸エチル …… 452
——————————ブチル …… 453
——————————プロピル 452
パラオキシフエニル尿素 …… 192
パラコヂン …… 202
パラジトール …… 296
パラフィン …… 482
パンオピン …… 202
パンギタール …… 110
パンクレアチン …… 246
パンセプチン …… 320,471
パントカイン …… 436,437
——————エル …… 437
パントポン …… 202
ビオクタニン青 …… 471
ビクロトキシン …… 38
ビチロール …… 449
ビツイトリン …… 97,405
ビツグランドール …… 97,405
ビツク膏 …… 452
ビノザリン …… 192
ピラミドン …… 188
ピラビタール …… 189
ピリヂウム …… 320
ピリフォルム …… 529
ピリミヂン …… 371
ピリパン …… 320
ピレチン …… 189
ピロカルピン …… 211
ピロガロール …… 445,446
プベローゲン …… 403
プラスモヒン …… 513,514
プリン体 …… 111,371
——誘導体 …… 122,310
プレホルモン …… 403
プロカイン …… 433
プロゲステロン …… 417
プロスチグミン …… 211
プロセプチン …… 516
プロミン …… 532
プロミゾール …… 532,533
プロミナール …… 169,170
プロタミン・インシュリン …… 409
プロタルゴール …… 467,469
プロテイン銀 …… 467,469
プロラクチン …… 403
プロラン …… 403
ペニシリン …… 320,517
ペプシン …… 245

ペラグラ …… 391
ペリスタルチン …… 266
ペリドール …… 480
ペルアブロヂル …… 386
ペルカイン …… 436,437
ペルキシール …… 456
ペルツツシン …… 133
ペルーバルサム …… 450
ペルビチン …… 209
ペルヒドロール …… 456
ペリフェルミン …… 480
ブロラン …… 402
ポドフィリン …… 263
ポリタミン …… 372
Padutin …… 410
Pancreatinum …… 246
Pangital …… 110
Panos …… 260
Panseptin …… 320,471
Pantocainum …… 437
Pantocain L …… 437
Pantoponum …… 202
Papainum …… 246
Papaver somniferum …… 197
Papaverinum hydrochloricnm 224
Papayotinum …… 246
p-Acetylphenetidin …… 185
Paraldehydum …… 171
Para-aminosalicylic acid …… 525
Paracodin …… 202
Paraffinum liquidum …… 260,482
—————— solidum …… 482
p-oxy-Ephedrin …… 209
p-Oxyphenylurea …… 192
Parasinomenirum hydrochloricum …… 194
Parasitol …… 296
Pasta …… 75
—— caustica Viennensis …… 472
——Sulfuris cum Pice liquida 448
Pastillum …… 74
Pavinal …… 202
Pellagra …… 391
Pellidol …… 480
Penicillin …… 517
Pepsinum saccharatum …… 246
Perabrodil …… 386
Percainum …… 437
Perhydrol …… 456
Periphermirum …… 480
Pertussin …… 133
Pervitin …… 209
Perxyle …… 456
Phenacetinum …… 185
Phanodormium …… 168
Pharmacopeia …… 76
Phenanthren …… 197
Phenapyridinum …… 320
Phenobarbitalum …… 169
Phenobarbitalum solubile …… 170
Phenolum …… 443
—————— liquefactum …… 444
—————— pro desinfection …… 444
Phenovalinum …… 268
Phenyldimethylpyrazolonum 188
Phenylalkylamin …… 209
Phenylsemicarbacid …… 192
Phenylum salicum …… 318
Phenylureabenzoica …… 192
Physostigminum salicylicum 213
Physostigminum sulfuricum 213
Pilocarpinum hydrochloricum 212
Pilula …… 74
Pilulae Acidi arsenicosi …… 357
—— Aloes …… 267
—— Alöes et Ferri …… 267,353
—— Aloes et Jalapae …… 267
—— Asiaticae …… 357
—— Creosoti …… 281
—— Creosoti corbonici …… 144
—— Chinini hydrochlorici 512
—— Ferri carbonici Blaudi …… 352
—————— et Chinini …… 353
—— Guajacoli carbonici …… 145
—— Olei Hydnocarpi …… 531
—— Rhei compositae …… 266
Peristaltinum …… 266
Pituglandol …… 97,405
Pituitrin …… 97,405
Pityrol …… 449
Pix liquida …… 448
Plasmochinum …… 514
—————— compositum …… 514
Plumbum aceticum …… 490
Podophylin …… 263
Polymerisation …… 60
Polytamin …… 372
Potentation …… 34
Potentialgift …… 54
Praehormon …… 403
Procainum hydrochloricum …… 437
pro dosi et pro die …… 20
Progesteron …… 416
Prolactin …… 403
Prolan …… 402,403
Promin …… 532,533
Prominalum …… 170
Promizole …… 532.533
Propylium paraoxybenzoicum …… 452
Prostigmin …… 211
Protamininsulin …… 409
Protargolum …… 469

Protectives…… 278,480
Prontosil album …… 516
Puberogen …… 403
Pulpa Tamarindi …… 260
Pulvis…… 74
—— aerophorus…… 238,239
—— aromaticus …… 243
—— Doveri…… 132
—— infantum…… 259
—— Ipecacuanhae opiatus 132
—— Liquiritiae compositus 267
—— Magnesiae cum Rheo 259
—— Rheicompositus…… 266
—— salicylicum cum Talco 451
—— stomachicus …… 241
—— Zinci cum Amylo…… 492
Pyliform…… 529
Pynosalin…… 192
Pyoctaninum coeruleum…… 471
Pyrabitalum …… 180
Pyramidonum…… 188
Pyridium…… 320
Pyripan …… 320
Pyrogallolum…… 446

Q

Quinophenum …… 196

R

ラカルノール…… 224
ラキサトール…… 268
ラクトフェニン…… 185
ラクトフラヴィン…… 390
ラクチルフェネチヂン…… 185
ラノリン…… 481
ラロサン…… 372
卵胞ホルモン…… 416
————剤…… 418
落花生油…… 482
雷丸…… 299
レギオン…… 517
レチチン…… 285,370
レグリン…… 260
レミジン…… 527
レアギン…… 29
レクチドン…… 157,158
レゾルチン…… 445
レスタミン…… 419
レバー…… 359
レンチン…… 210
リチネ油…… 262
リチウム…… 386
リビオドール…… 386
リマオン…… 471
リゾホルム…… 442
リンゲル液……13,101
リヴァノール…… 470,471
リゾール…… 444
————水…… 445
リンダウ…… 242
燐…… 378
燐酸…… 238,325
——塩…… 378
——石灰…… 230
——ヒドロコデイン…… 202
——コデイン…… 132
——ソーダ…… 258
——リモナーデ…… 238
竜膽…… 242
——エキス…… 242
利尿剤…… 310
——の薬理…… 303
——の臨牀応用…… 307
利胆剤…… 287
緑石鹼…… 479
流動パラフィン…… 260,482
——蘇合香…… 450
硫化アルカリ類…… 477
——カリ…… 478
硫肝…… 478
硫苦…… 258,440
硫酸亜鉛…… 248,492
——アルミニウム…… 492
——アトロピン…… 116,135
…… 219,249,289
——銅…… 248.475
——エゼリン…… 213
——フィゾスチグミン…… 213
——キニヂン…… 116
——キニーネ…… 186,512
——マグネシア…… 258,440
——ソーダ…… 258
ロベリン…… 126,127
ロック液…… 101
ロート…… 215
——剤…… 233,277
——エキス…… 220,334,270
——チンキ…… 235
——坐剤…… 220,227
——軟膏…… 220
——タンニン坐剤…… 278
ロダン・ヂウレチン・カルシウム…
…… 122
ロデアリン…… 111
ロカイ…… 267
——丸…… 267
——鉄丸…… 267,353
——ヤラツパ丸…… 267
ロヤク丸…… 267
瀉性症…… 323
瀉砂…… 141
ルエスチン…… 508
ルゴール液…… 385,462
ルジール…… 516
ルミナール…… 168,169
————ナトリウム…… 170

ルタミン…… 425
ルチノン…… 344
ルチン…… 344
Radix Colombo…… 243,279
—— Gentianae …… 242
———— scabrae…… 242
—— Ipecacuanhae …… 139
—— Liquiritiae …… 374
—— Polygalae…… 137
—— Senegae …… 137
Reagine…… 29
Receptum…… 76
Rectidon…… 158
Redoxsystem …… 331
Regulin …… 260
Resina Jalapae …… 264
—— Pharbitidis …… 264
—— Podophylli…… 264
Resorcinum…… 445
Reticuloendothel…… 53
Rhizoma Coptidis…… 243
—— Pinelliae…… 250
—— Rhei …… 241,266
—— Valerianae…… 177
Rhodealin …… 111
Rimaon …… 471
Rivanol …… 471
Rubefacients …… 484
Rubrum scarlatinum purum 480
Rutamin…… 425

S

サイロキシン…… 411
サツカリン…… 374
サキシール…… 480
サザビリン…… 194
サビオール・ナトリウム…… 505
サリビリン…… 188
サルヴァルサン…… 502,505
————ナトリウム… 505
サルファン…… 540
サレップ漿…… 278
サロメチール…… 194
サヨヂン…… 385
サンゼス…… 507
サンダロール…… 319
サンタル油…… 319
サントニン…… 292
————酸ソーダ…… 292
————錠…… 292
サンドルマン…… 209
サンカール…… 250,378
サリチル酸…… 451,477
————アンチピリン…… 188
————エゼリン…… 213
————ガーゼ…… 452
————水銀…… 508
————精…… 451
————石鹼硬膏…… 452
————ソーダ…… 189,192
————錠…… 193
————錠カフェイン92
————テオブロミン・カルシウム…… 311
————ソーダ… 311
————軟膏…… 194
————フィゾスチグミン 213
————フェニル…… 318
————メチル…… 194
————綿…… 452
————類…… 189
サリチル・タルク…… 451
サリチロサリチル酸…… 194
サルゾール…… 517
サルホール…… 478
催淫剤…… 426
催眠剤…… 159
——の化学的分類…… 161
——の副作用…… 163
醋化…… 62
醋酸…… 472,473
——カリ液…… 313
——テオブィリンソーダ…… 312
——鉛…… 490
——アルミニウム液…… 491
——テオベロミン・ソーダ… 312
——礬土液…… 491
醋剝水…… 313
酸素…… 128
——の吸入…… 337
酸化…… 56
——亜鉛…… 492
——剤…… 455
——カルシウム…… 454
——還元系…… 331
————触媒…… 332
酸剤…… 235
酸性症…… 322
酸瀉調節…… 321
茶剤…… 75
擦剤…… 75
晒粉…… 460
晒蜜蠟…… 482
散薬…… 74
撒曹…… 192
山岳病…… 334
3 価の鉄塩…… 350
シアン水素酸…… 137
シナ花…… 291
シノメニン…… 194
シヤッテン…… 386
ショック…… 84
ショレバール…… 289,470
シロバナヤウシュテウセンアサガホ…… 215

シロップ…… 374
シラーレン…… 111
シンナモイルオキシ・フェニル尿素…… 192
シンナビリン…… 192
ジンバトール…… 208
四塩化エチレン…… 295
——炭素…… 295,296
止血剤…… 338
子宮緊縮剤…… 420
——及腟よりの吸収…… 8
小児散…… 259
小児粉…… 373
刺戟性祛痰剤…… 136
習慣性…… 27,29
縮瞳剤…… 212
酒石酸…… 238
——カリ…… 258
——アンチモンカリウム…… 531
——ナトリウム 531
植物性脂肪類…… 482
——神経系…… 203
漿液腔よりの吸収…… 16
食塩…… 326,341,374
——熱…… 327
昇汞…… 464,465
——錠…… 466
昇華硫黄…… 478
猩紅赤…… 479,480
症候療法…… 2
衝撃…… 84
焦性没食子酸…… 445,446
菖蒲チンキ…… 243
消炎剤…… 485
消化管よりの排泄…… 69
——器の薬理…… 224
——酵素…… 245
消石灰…… 454
消毒薬…… 441
——用メタノール…… 442
——用昇汞…… 466
脂肪…… 368
——芥子…… 496
——類…… 373
——剤…… 481
臭那…… 176
臭剝…… 175
蓚酸セリウム…… 250
就眠剤…… 162
収斂剤…… 487
樟脳…… 85
——酸…… 221
硝酸銀加硝石…… 474
硝酸…… 472,473
——ストリキニーネ…… 94
——銀…… 467,469,473
瀉下剤…… 252
瀉利塩…… 258
主養素…… 365
処方箋…… 74,76
峻下剤…… 253
振盪合剤…… 75
神效石…… 475
浸剤…… 75
心臓ブロック…… 112
——マッサージ…… 149
——律動障碍に作用する薬物 112
心房フラッテルン…… 113
——フリンメルン…… 113
スーセオール…… 478
スカポール…… 478
スギウロン…… 386
スコポラミン…… 177,215
スコポリン…… 215
スコロイド…… 235
スチミン…… 539
スチブチチン…… 425
スチブトール…… 425
スチブナール…… 531
ストリキニーネ…… 31,92,126
——痙攣…… 92
ストロファンチン…… 97,99
ストロファンツス…… 110
——チンキ…… 111
ストロンチウム…… 386
ストヴァルソール…… 505
ストレプトマイシン…… 523
スピロヂン…… 508
スピロザール…… 194
スピロチード…… 505
スブルー…… 392
スプラレニン…… 207
スルホナール…… 171
スルフォン剤…… 532
スルファニルアミド誘導体…… 320,514
スルファミン…… 516
スルファ・グアニヂン…… 516,517
——ダイアジン…… 516,517
スルファ・チアツォール…… 516,517
スルファメチル・チアツォール…… 516,517
——ピリヂン…… 516,517
スルフロール…… 540
スルピリン…… 189
スロン…… 419
水化石灰…… 454
水酸化カリ…… 472
水銀剤…… 313,507
——化合物…… 464
——硬膏…… 508
水性大黄チンキ…… 266
水薬…… 75
水楊酸曹達…… 192

膵臓…… 405
——酵素…… 245
睡菜葉…… 242
セカルチン…… 423
セタノール…… 483
——軟膏…… 483
セダロン…… 189
セチルアルコール…… 483
セルテル水…… 249,238
センナ・シロップ…… 267
センナ葉…… 266
センブリ…… 241
青酸…… 336
——含有剤…… 137
制汗剤…… 220
制瀉剤…… 270
生石灰…… 454
生薑チンキ…… 243
生理的食塩水…… 101
生体アミン…… 64
石灰水…… 275,455
——擦剤…… 455
——乳…… 554
石炭酸…… 442,443,475
——水…… 444
——亜鉛華糊膏…… 475
石榴皮…… 299
石鹸…… 478
——カンフル擦剤…… 499
——硬膏…… 479
——精…… 479
赤降汞…… 464
赤酒…… 99
赤色酸化汞…… 464
精製滑石…… 487
——酒石…… 258
——樟脳…… 88
——タルク…… 487
——ヂフテリア・アナトキシン…… 536
——テレビン油…… 142
——破傷風アナトキシン…… 537
——流動蘇合香…… 450
——硫黄…… 268,478
笑気…… 154
制吐剤…… 248
制淫剤…… 426
清涼剤…… 237
煎剤…… 75
ソマトーゼ…… 372
ソムナール…… 165
ソラルソン…… 358
ソルボヒン…… 513
蒼鉛剤…… 235,273,493,506
相加…… 34
相乗…… 34
総和…… 34
蘇合香バルサム…… 450
組織の作用物質…… 419
——ホルモン…… 419
Saccharinum solubile …… 374
Saccharum Lactis…… 374
Sajodinum…… 385
Sal carolinum factitium…… 232,258
Salfaguanidin…… 517
Salipyrinum …… 188
Salmiac …… 141
Salol …… 318
Salomethyl…… 194
Salvarsan…… 505
—— natrium …… 505
Salyganum…… 313
Sarcal…… 378
Santalol …… 319
Santoninum …… 292
Sapo jalapinus …… 264
—— kalinus …… 479
—— medicatus…… 269,479
—— viridis …… 479
Sasapirinum …… 194
Saturatio …… 75
Saviol-Natrium…… 505
Saxyl …… 480
Scabol…… 478
Scharbock …… 392
Scillarenum…… 111
Scopolaminum hydrobromicum …… 178
Scopolia japonica …… 215
Scoloid…… 235
Scopoline…… 215
Sebum bovinum …… 481
Secacornin…… 423
Secale cornutum …… 422
Secartin …… 423
Semen Sinapis …… 496
—— exoleatum…… 496
—— Ricini…… 260
Senegalon …… 137
Serum antidiphthericum liquidum …… 536
——antitetanicum liquidum 537
Shock…… 84
Skorbut …… 392
Sinomeninum hydrochloricum …… 194
Sirolin…… 145
Sirupus Aurantii …… 374
—— Corticis…… 243
—— Fragariae…… 374
—— Ipecacuanphae …… 140
—— Polygalae…… 137
—— Ferri jodati…… 353
—— Rhei…… 266

——— Senegae …… 137
——— Sennae …… 267
——— simplex …… 374
——— Thymi compositus …… 133
Solarson …… 358
Solutio …… 75
Solutio Natrii hypochlorosi …… 460
Solvochin …… 513
Somatose …… 372
Spasmolytica …… 223
Species …… 75
Spiritus aethereus …… 146
——— Chloroformii …… 438
——— Ammoniae foeniculatus …… 140
——— camphoratus …… 499
——— Jodi …… 385,462
——— dilutus …… 462
——— menthae …… 476
——— salicylatus …… 451
——— saponatus …… 479
——— Sinapis …… 497
Spirocidum …… 505
Spirosal …… 194
Sprue …… 392
Stibio-Kalium tartaricum …… 531
Stibnal …… 531
Stimin …… 539
Stomachica acria …… 243
——— aromatica …… 243
Stovarsolum …… 505
Streptomycin …… 523
Strontium …… 386
Strophanthinum …… 99
Strophanthus …… 110
Strychninum nitricum …… 94
Stypticin …… 425
Styptol …… 425
Styrax liquidus depuratus …… 450
sublimat …… 465
Succus Liquiritiae …… 374
Sulfan …… 540
Sulfor …… 478
Sulfadiazine …… 517
Salfamethylthiazol …… 517
Sulfaminum …… 516
Sulfanilamid …… 516
Sulfapyridin …… 517
Sulfathiazol …… 517
Sulfonalum …… 171
Sulfurol …… 540
Sulfur depuratum …… 268,478
——— praecipitatum …… 478,539
——— sublimatum …… 478
Sulpyrinum …… 189
Summation …… 34
Suppositoria Glycerini …… 269
——— Opii …… 277
——— Scopoliae …… 277
——— tannata …… 278
Suppositorium …… 75
Suprarenin …… 207
Suspensio …… 75
Suron …… 419
Suseol …… 478
Sympatol …… 96,208
Synergism …… 33
Synthex …… 397

T

タイロード液 …… 79
タール …… 448
タールパスタ …… 448
タルク …… 487
タルゲシン …… 470
タヒフィラキシー …… 31
タマリンド …… 260
タンナルビン …… 273
タンニゲン …… 212
タンニン …… 489
——酸 …… 273,340,489
——アルブミン …… 273
——キニーネ …… 512
体温調節中枢 …… 179
体内における薬物の分布 …… 49
炭酸 …… 126,324,238,500
——クレオソート …… 144
——丸 …… 145
——グアヤコール …… 145
——丸 …… 145
——石灰 …… 275,230,232
——マグネシア …… 230,232,259
——浴 …… 500
単鉛軟膏 …… 491
単舎利別 …… 374
蛋白質 …… 365
——製剤 …… 372
——体療法 …… 538
胆汁分泌促進剤 …… 287
——よりの排泄 …… 69
胆嚢排出促進剤 …… 287
膽道の薬理 …… 285
疸脂 …… 370
チアソトール …… 478
チオコール …… 145
チオジナミン …… 480
チオセミカルバゾン …… 526
チオノール …… 449
チオ硫酸ソーダ …… 540
チクトキシン …… 38
チグノリン …… 446
チモール …… 293,449,450
チビオン …… 526
チフェラミン …… 317
チミツッシン …… 133

チームセン氏液 …… 357
チラーヂン …… 414
チラミン …… 64
チレオイード …… 414
チレオグランドール …… 414
チロイド …… 414
チロキシン …… 410,414
チロジン …… 64
チンク油 …… 493
知覚神経麻痺剤 …… 428
弛緩性便秘 …… 251
蓄積 …… 103
——作用 …… 18
致死量 …… 20
窒息 …… 333
——ガス …… 335
遅発作用 …… 18
注射 …… 11
——用アテブリン …… 513
茶 …… 89
中枢興奮剤 …… 146
——神経系の薬理 …… 146
治療薬 …… 531
直腸よりの吸収 …… 7
腸管消毒剤 …… 280
腸よりの吸収 …… 5
——の排出 …… 70
腸機能の薬理 …… 250
丁香油 …… 243,451
丁子油 …… 451
調節的反作用 …… 20
——療法 …… 2
沈降炭酸石灰 …… 232,275
——硫黄 …… 478,539
鎮痙剤 …… 223
鎮静剤 …… 174
鎮痛剤 …… 182
鎮痙剤 …… 475
ツメノール・アンモニウム …… 449
ツヨール …… 319
通経薬 …… 265
通眠剤 …… 162
椿油 …… 482
テアチロン …… 312
ティン …… 92
テール …… 448
テウセンアサガホ …… 215
テオチン …… 312
テオフィリン …… 312
テオフィロール …… 312
テオブロミン …… 311
テストステロン …… 416
テタニー …… 414
テトラタン …… 296
テトラ・ヨード・フェノルフタレイン …… 386
テトロドトキシン …… 439
テラポール …… 516
テラマイシン …… 524
テレビン油 …… 142
低血糖性ショック …… 409
蔘硫膏 …… 448
滴数表 …… 76
鉄 …… 379
鉄剤 …… 350
転化糖 …… 285
トネフィン …… 97,404,405
トラウマチチン …… 446
トリアノン …… 517
トリビスモン …… 507
トリブロム・エタノール …… 158
——石炭酸蒼鉛 …… 494
トリオナール …… 171
トリクロルエチルアルコール 157
トリクロルエチレン …… 184
トリクロル醋酸 …… 473
トリパフラヴィン …… 320,470,471
トリパルザミット …… 506
トレポール …… 507
トロピン …… 215
籐黄 …… 264
糖質 …… 368
等張液 …… 99
——(5%)葡萄糖液 …… 100,102
疼痛性麻酔剤 …… 439
当薬 …… 241
橙皮シロップ …… 243,374
——チンキ …… 243
特殊変調療法 …… 539
吐根 …… 139
——酒 …… 140
——錠 …… 140
——シロップ …… 140
——チンキ …… 140
吐剤 …… 246
吐酒石 …… 503,531
舐剤 …… 75
杜松実油 …… 280
豚脂 …… 481
Tabulettae …… 74
——— Aminopyrini …… 189
——— Antipyrini …… 188
——— Aspirini …… 194
——— Bismuti subnitrici 274
——— Chinini hydrochlorici …… 512
——— Cocaini hydrochlorici …… 432
——— Hydragyri bichlorati …… 466
——— chlorati 263
——— Hydragyri oxycyanati …… 466
——— Ipecacuanhae …… 140

——— Migraenini……188
——— Morphini hydrochlorici …… 202
——— Natrii salicylici…193
——— Santonini …… 292
——— stomachicae …… 242
Tachyphylaxis …… 31
Tala Acidi borici …… 453
Talcum …… 487
—— depuratum …… 487
Tannalbinum …… 273
Tannigenum …… 272
Tannin …… 489
Tanninum acetylicum …… 272
Targesin …… 470
Tartarus depuratus …… 258
——stibiatus …… 531
Teerpasta Dohi …… 449
Tela chinoformiata …… 463
—— jodoformiata …… 463
—— salicylatum …… 452
Terpinum hydratum …… 142
Terramycin …… 524
Teststeron …… 416
Tetrachloräthylen …… 295
Tetrajodphenolphtalein …… 386
Tetratan …… 296
Tetrodotoxin …… 439
Theacylon …… 312
Thein …… 92
Theobrominum …… 311
——— acetylsalicylicum …… 312
Theobromino-Calcium salicylicum …… 311
——— natrium aceticum… …… 312
——— salicylicum …… 311
Theocin …… 312
Theocinum natrio-aceticum… 312
Theophyllinum …… 312
Theophylloum …… 312
Theophyllin Athylendiamin… 312
Theophyllino-natrium aceticum …… 312
Therapia sterilisans magna … 48
Thiantholum …… 478
Thiosinaminum …… 480
Thiokol …… 145
Thionol …… 449
Thymitussin …… 133
Thymolum …… 293,450
Thyradin …… 414
Thyreoglandol …… 414
Thyreoid Desicated …… 414
——— Substance …… 414
Thyroxine …… 411
Thyroxinum …… 414
Tibione …… 526
Tinctura amara …… 242
——— aromatica …… 249
——— Aurantii Corticis… 243
——— Calami …… 243
——— cannabis indicae … 203
——— Cantharidis …… 498
——— Catechu …… 483
——— Chinae …… 241
——— Composita 241
——— Cinnamomi …… 243
———Digitalis …… 109
——— gallae …… 489
——— Gentianae …… 242
——— Ipecacuanhae …… 140
——— Myrrhae …… 450
——— Opii …… 277
——— Picrasmae …… 243
——— Rhei …… 241,266
——— aquosa …… 266
——— Scopoliae …… 235
——— Stomachic …… 241
——— Strophanthi …… 111
——— Strychni …… 242
——— Valerianae …… 177
——— aetherea 177
—— Zingiberis …… 243
Trichloräthlen …… 184
Tribromaethanolum …… 158
Trichlorurethan …… 171
Trichlormethan …… 153
Trichloräthylalkohol …… 157
Trionalum …… 171
Trypaflavin …… 320,471
Trepolum …… 507
Tryparsamidum …… 506
Tropine …… 215
Tonephin …… 97,404,405
Tumenol Ammonium …… 449
Tuyol …… 319
Typheramin …… 317
Tyramine …… 64
Tyrode …… 79
Tyrosine …… 64

U

ウアバニン …… 99
ウィルソン軟膏 …… 492
ウィルキンソン軟膏 …… 449
ウキーンナ腐蝕バスタ …… 472
ウェラトリン …… 54
ウリノーゲン …… 517
ウリロン …… 515,517
ウルアミノ酸合成 …… 62
ウルキール合成 …… 63
ウワウルシ葉 …… 315

———流動エキス …… 315
ウロザリン …… 317
ウロシトリン …… 317
ウロゼレクタン …… 386
ウロトロピン …… 316,317,289
———液 …… 317
ウロボラミン …… 317
茴香 …… 281
——水 …… 243,281
運動神経麻痺剤 …… 439
Uabanin …… 99
Uliron …… 517
Unguentum …… 75
——— Acidi borici …… 453
——— Ammonii sulfaichthyolici …… 449
——— camphoratum …… 499
——— Cetanoli …… 483
——— cinereum …… 508
——— Glycerini …… 483
——— Kali jodati …… 462
——— Hebrae …… 491
——— Hydrargyri album… …… 466
——— cinereum …… 508
——— flavum … …… 466
——— Picis liquidae …… 448
——— rhoicum …… 482
——— vesicans fortius… 498
——— mitius… 498
——— Willkinsoni …… 449
——— Wilsoni …… 492
——— Zinci …… 492
Urea …… 314
—— diaethylmalonica …… 167
Uroboraminum …… 317
Urocitrium …… 317
Urosalinum …… 317
Uroselektan …… 386
Urotropin …… 289,317

V

ヴィオフォルム …… 463
ヴィタミン …… 363,387
———剤 …… 387
——— A …… 388
——— B 群 …… 389
——— B_1 …… 392
——— C …… 342,392,394
——— D …… 394
——— E …… 396
——— F …… 396
——— H …… 396
——— K …… 342,397
——— L …… 398
——— M …… 393
——— P …… 342,392,393
———欠乏症 …… 387
ヴェラモン …… 189
ヴェリトール …… 209
ヴェロヂゲン …… 110
ヴェロナール …… 167
———ナトリウム …… 168
ヴォルンタール …… 171
Vagostigmin …… 211
Validol …… 176
Valentine's Meat juice …… 372
Vasano …… 248
Vaselinum album …… 482
——— flavum …… 482
——— oxydatum …… 482
Vasogenum …… 482
Vasopressin …… 404
Veramonum …… 189
Veritol …… 209
Veratrin …… 54
Verodigen …… 110
Veronalum …… 167
Veronalnatrium …… 168
Vesicants …… 484
Vet …… 396
Vinum …… 99
—— Condurango …… 240
—— Ipecacuanhae …… 140
—— rubrum …… 99
Vioform …… 463
Vitacampher …… 89
Voluntalum …… 171

W

ワクチン …… 537
ワゴスチグミン …… 211
ワサノ …… 248
ワゾゲン …… 482
ワリドール …… 176
ワレンタイン肉汁 …… 372

X

Xanthopsie …… 291
Xeroformum …… 494

Y

焼明礬 …… 492
薬物作用の外的条件 …… 24
———体内的条件 …… 21
薬物にたいする個人的感受性 24
——の化学的変化 …… 56
——後作用 …… 18
——作用と境遇 …… 24
———と体質 …… 21
——生理的作用 …… 17
——体外排出 …… 65
——体内吸収 …… 3
——分布と作用との関係… 53
薬局方 …… 76
薬用石鹸 …… 269,479

——炭…… 280
——量…… 19
ヤトレン…… 528
ヤトレン・カゼイン…… 539
ヤピオール…… 529
————カゼイン…… 539
ヤラッパ脂…… 263,264
————石鹸…… 264
有機酸…… 235
——性消毒薬…… 441
有性生殖体にたいする薬剤… 513
誘導薬…… 495
輸血…… 347
油糖剤…… 75
ユーカリ油…… 143
ユベラ…… 396
葉酸…… 347,398
ヨード…… 380,460,462
——塩…… 141
——化油…… 386,462
——カリ…… 141,385
————軟膏…… 462
——剤…… 380
——精…… 385,462
——チンキ…… 385,462,498
——ヂウカルチン …… 385
——ヂウレチン・カルシウム… …… 385
——中毒…… 381
——鉄シロップ…… 353
——ナトリウム…… 385
——バセドウ…… 381
——テトラグノスト…… 386
——ホルム…… 462,463
————コロヂオン…… 463
————ガーゼ…… 463
————綿…… 463
——ヨードカリグリセリン 462
容器と薬理…… 76
溶解性祛痰剤…… 140
溶性サッカリン…… 374
——バルビタール…… 168
——フエノバルビタール…… 170
熔製硝酸銀…… 473
楊曹…… 192
用量と作用との関係…… 19
ヨーグルト…… 252
ヨチオン…… 462
ヨヂピン…… 386
ヨヒムビン…… 426
ヨルゴン…… 414
Yapiol…… 529
Yapiolcasein …… 539
Yorgon …… 414
Yatren 105…… 529
Yatrencasein …… 539
Yohimbinum hydrochloricum 426

Z

坐薬…… 75
ザポニン類…… 136
ザリルガン…… 313
ザロール…… 318
ヅオタール…… 145
ヅルチン…… 374
ゼカコルニン…… 423
ゼドリン…… 209
ゼネガ根…… 137
—— シロップ…… 137
ゼネガロン…… 137
ゼラチン…… 343
条虫駆除剤…… 296
絶対的不整脈…… 114
全身止血剤…… 341
臓器製剤…… 343
Zinkchlorid…… 474
Zincum chloratum……474
—— oxydatum …… 492
—— sulfuricum …… 248,492

納本

昭和 3 年 2 月 25 日第 1 版印刷
昭和 5 年 1 月 25 日第 2 版発行
昭和 6 年 6 月 15 日第 3 版発行
昭和 8 年 4 月 10 日第 4 版発行
昭和 11 年 3 月 30 日第 5 版発行
昭和 17 年 6 月 20 日第 6 版発行
昭和 18 年 3 月 25 日増刷第 6 版発行
昭和 27 年 3 月 5 日改訂第 7 版印刷
昭和 27 年 3 月 10 日改訂第 7 版発行

臨牀薬理学
下巻
定價 ¥ 900.00

弊社付の紙を印刷して定価は変更せず
THE JAPAN MEDICAL PUBLICATIONS Co. Ltd.
NSPA 日本科学書協会

著者 額田晉（ヌカダ スヽム）
発行者 金原四郎
東京都文京区湯島切通坂町 21.
印刷者 小林光次
東京都中央区入船町 1—8
印刷所 明石印刷株式会社
東京都中央区入船町 1—8

東京都文京区湯島切通坂町 21
發行所 日本医書出版株式会社
電話 小石川 518・948・4322
振替口座東京 151494

京都支社
京都市上京区河原町通丸太町上ル
電話（上）4114 振替京都 25642

Printed and published in Japan.

額田　晉著	臨牀薬理學　上卷	¥ 600. 〒 75.
福田　得志著	薬理學講本　総論 各論上	¥ 350. ¥ 320. 〒 30.
松田　勝一著	医學実験甲一動物學	¥ 600. 〒 50.
市原　硬著	新医化學提綱	¥ 600. 〒 50.
児玉　桂三 正宗　一著	医化學	¥ 900. 〒 100.
木村　廉著	細菌學及免疫學	¥ 1100. 〒 100.
石沢　政男著	組織學提要　第1卷 第2卷	¥ 900. ¥ 1200. 〒 100.
森　茂樹著	病理學　総論 各論	¥ 1200. ¥ 1600. 〒 100.
草間　良男編	英和医學小辭典	¥ 200. 〒 30.

491.5
N984r
(t7)
00265333